

# サンコスモ古賀空調設備改修工事

図 番	図 面 名 称	図 番	図 面 名 称	図 番	図 面 名 称
M-00	表紙・図面リスト	M-27	2階機械室（4）・3階機械室詳細図	M-54	2階既設配管撤去図（2）
M-01	特記仕様書（1）	M-28	蓄熱槽清掃・水替え・薬液投入工事	M-55	2階既設配管撤去図（3）
M-02	特記仕様書（2）	M-29	自動制御設備 中央監視システム図	M-56	中3・3階既設配管撤去図
M-03	改修空調機器表（1）	M-30	自動制御設備 中央管理点入出力一覧表（1）	M-57	撤去 空調・換気ダクト系統図
M-04	改修空調機器表（2）	M-31	自動制御設備 中央管理点入出力一覧表（2）	M-58	撤去換気機器表（1）
M-05	改修空調機器表（3）	M-32	自動制御設備 計装図（1）	M-59	1階既設ダクト撤去図（1）
M-06	空調設備 改修配管系統図	M-33	自動制御設備 計装図（2）	M-60	1階既設ダクト撤去図（2）
M-07	1階改修配管図（1）	M-34	自動制御設備 計装図（3）	M-61	1階既設ダクト撤去図（3）
M-08	1階改修配管図（2）	M-35	自動制御設備 計装図（4）	M-62	1階既設ダクト撤去図（4）
M-09	1階改修配管図（3）	M-36	自動制御設備 地階平面図・ピット図（改修）	M-63	2階既設ダクト撤去図（1）
M-10	1階改修配管図（4）	M-37	自動制御設備 1階平面図（1）（改修）	M-64	2階既設ダクト撤去図（2）
M-11	2階改修配管図（1）	M-38	自動制御設備 1階平面図（2）（改修）	M-65	2階既設ダクト撤去図（3）
M-12	2階改修配管図（2）	M-39	自動制御設備 1階平面図（3）（改修）	M-66	中3・3階既設ダクト撤去図
M-13	2階改修配管図（3）	M-40	自動制御設備 1階平面図（4）（改修）	M-67	自動制御設備 地階平面図・ピット図（撤去）
M-14	中3・3階改修配管図	M-41	自動制御設備 2階平面図（1）（改修）	M-68	自動制御設備 1階平面図（1）（撤去）
M-15	改修換気機器表（1）	M-42	自動制御設備 2階平面図（2）（改修）	M-69	自動制御設備 1階平面図（2）（撤去）
M-16	改修 空調・換気ダクト系統図	M-43	自動制御設備 2階平面図（3）（改修）	M-70	自動制御設備 1階平面図（3）（撤去）
M-17	1階改修ダクト図（1）	M-44	自動制御設備 3階平面図（改修）	M-71	自動制御設備 1階平面図（4）（撤去）
M-18	1階改修ダクト図（2）	M-45	撤去空調機器表（1）	M-72	自動制御設備 2階平面図（1）（撤去）
M-19	1階改修ダクト図（3）	M-46	撤去空調機器表（2）	M-73	自動制御設備 2階平面図（2）（撤去）
M-20	1階改修ダクト図（4）	M-47	撤去空調機器表（3）	M-74	自動制御設備 2階平面図（3）（撤去）
M-21	2階改修ダクト図（1）	M-48	空調設備 撤去配管系統図	M-75	自動制御設備 3階平面図（撤去）
M-22	2階改修ダクト図（2）	M-49	1階既設配管撤去図（1）	M-76	スプリンクラー設備 1階平面図
M-23	2階改修ダクト図（3）	M-50	1階既設配管撤去図（2）	M-77	スプリンクラー設備 2階平面図
M-24	中3・3階改修ダクト図	M-51	1階既設配管撤去図（3）	M-78	スプリンクラー設備 3階平面図
M-25	B 1階機械室詳細図	M-52	1階既設配管撤去図（4）		
M-26	2階機械室（3）詳細図	M-53	2階既設配管撤去図（1）		

記   事		業務名称		工事名称		設計年月
		サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託		サンコスモ古賀空調設備改修工事		令和 6 年
		 株式会社 緑企画設計 福岡支店		印	図面名称	図面番号
		一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1 - 11755号 一級建築士（大臣）第262654号 橋 知克		・      ・	表紙・図面リスト	M - 00

機械設備工事特記仕様書

I . 工 事 名 称  
サンコスモ古賀空調改修工事

II . 工 事 概 要  

1 . 工 事 場 所  
福岡県古賀市庄205番地

2 . 建 物 概 要

建物名称	構造	階数	延面積(m <sup>2</sup> )	防火対象物の種別	戸数・消化器入り等受水槽有効容量等
サンコスモ古賀	R C造	3	5,037.27	(16)項 イ	

3 . 工 事 様 目    ○印を付けたものを適用する)

工事項目	建物別及び屋外				
	サンコスモ古賀				
・衛生器具設備	一式	一式	一式	一式	
○給水設備	改修 一式	一式	一式	一式	改修 一式
・排水設備	一式	一式	一式	一式	一式
・給湯設備	一式	一式	一式	一式	
・消火設備	一式	一式	一式	一式	一式
・ガス設備	一式	一式	一式	一式	一式
○換気設備	改修 一式	一式	一式	一式	
○空気調和設備	改修 一式	一式	一式	一式	
○撤去工事	撤去 一式				
・排煙設備	一式	一式	一式	一式	
・中水設備	一式	一式	一式	一式	一式
・浄化槽設備					一式
・さく井設備					一式
・電気設備工事※	一式				一式
・建築工事※	一式				一式

※各工事の特記仕様書を確認のこと

4 本 工 事 設 備 概 要      (本工程該当箇所)☐印をつける)

給排水衛生設備	給水方式	上水道(○市水 ・ 井水)     法的区分( ・ 小規模貯水 ・ 簡等 ・ 専用水道) 給水方式(○水道直結方式(○屈圧 ・ 増圧) ・ 高架水箱方式 ・ ポンプ直送方式 ) 中水道( ・ 雑用処理水 ・ 雨水 ・ 井水 ) 中水給水方式 ( ・ 水道直結方式 ・ 高架水箱方式 ・ ポンプ直送方式 )	
	排水方式	・ 建物内汚水と雑排水 ( ・ 分流 ・ 合流) ・ 重力式 ・ ポンプアップ式 ・ 敷地外放流方式 ・ 直放流 ( ・ 合流式 ・ 分流式 ) ・ 非直放流 ( ・ 净化槽 ・ 中水处理槽 )	
	浄化槽の形式	・ ユニツト型 ・ 現場施工型 ・ 熱温水質B00   mg/L ・ 合併処理	
	給湯設備	・ 局所式 ・ 中央式	
	消火設備の種類	・ 屋内消火栓 ( ・ 1号 ・ 2号 ・ 易操作性1号 ) ・ スリノkker ・ 連絡散水 ・ 連絡送水 ・ 屋外消火 ・ 水噴霧消火 ・ 泡消火 ・ 不活性ガス ・ HDTン化物消火 ・ 粉末消火	
	ガスの種類	・ 都市ガス ・ 液化石油ガス ・ 簡易ガス	
	空 気 調 和 設 備	空調方式	○ ダクト方式    ○ ファンコイルユニット    ○ ダクト併用方式 ○ パッケージ方式 ( ・ 中央式 ・ 分散式    ○ 個別式 ) ・ 直接暖房 ( ・ 蒸気 ・ 温水 ) ・ 溫風暖房 ・ 暖房専用 ・ 将来冷房可能 ・        溫風暖房機          空氣調和機
		主要熱源機器	・ 温水 ・ 蒸気 ・ 鉄製ボイラ ・ 鋼製ボイラ ( ・ 立てボイラ ・ 炉筒煙管式ボイラ ) ・ 溫風暖房機    ○ ヒートポンプチャ― ( ・ 水冷    ○ 空冷 ) ・ 往復動冷凍機 ・ 遠心冷凍機 ・ 吸収冷凍機    ・ 直置き吸収冷水機
全熱交換器		・ 回転形 ・ 静止形    ○ 全熱交換ユニット	
換気設備		○ 機械換気 ( ●有 ・ 無 )	
排煙設備		○ 機械排煙 ( ・ 有    ○ 無 ) ・ 法規 ( ・ 建基法 ・ 消防法 )	

5 .法令による区画 (本工程該当箇所)☐印をつける    ※有の場合は、図示等に よる)

建 築 基 準 法	防火区画	112条区画 (●有 ・ 無)
		114条区画 (●有 ・ 無)
	延焼のおそれがある部分 (●有 ・ 無)	
消 防 法	排煙區画 ( ・ 有 ・ 無 )	
	令8區画 ( ・ 有 ・ 無 )	
そ の 他 の 区 画	共仕區画 ( ・ 有 ・ 無 )	

6 . その他                      (本工程該当箇所)☐印をつける)

・ 通快2日促進工事	・ 入札時積算数量活用方式対象工事	・ 快適トイレ設置対象
・ 情報共有システム活用	・ 余裕期間制度対象	
※工事内容、留意事項等を必ず記載のこと。		

III . 工 事 仕 様

1 . 通用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様による。

(1) 「公共建築物標準仕様書（機械設備工事編　令和4年版）」   国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修

(2) 「公共建築物標準仕様書（電気設備工事編　令和4年版）」   国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修

(3) 「公共建築物標準仕様書（建築工事編　令和4年版）」   国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修

(4) 「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編　令和4年版）」   国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修

(5) 「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編　令和4年版）」   国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修

(6) 「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編　令和4年版）」   国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修

(7) 「公共住宅建設工事共通仕様書（令和元年度版）」   国土交通省住宅局住宅総合整備課監修

年次内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。  
ただし、改定内容で免注仕様の変更又は工事価格の変更が生ずる場合は、最担当者と協議すること。

補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準等による。

(1)「公共建築設備工事標準図（機械設備工編 令和4年版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部設備・環境課監修

(2)「公共建築設備工事標準図（電気設備工編 令和4年版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部設備・環境課監修

(3)「建築工事標準詳細図（建築工事編 令和4年版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部設備・環境課監修

(4)「機械設備工事管理指針（令和元年度版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部監修

(5)「電気設備工事管理指針（令和元年度版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部監修

(6)「建築工事管理指針（令和元年度版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部監修

(7)「建築改修工事管理指針（令和元年度版）」国土地交通大臣官庁府営官舎館部監修

(8)「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」独立行政法人 建築研究所監修

(9)「建築工事安全衛生技術指針-何務録」国土地交通大臣官庁府営官舎館部監修

(10)「建築物廃棄物処理指針」厚生労働省生活及社会政策局建設部住宅政策室マニュアル

(11)「建築法等の規制等に係る不確実な取扱い及び給排水漏えい防止対策策定マニュアル（厚生労働省労働基準局安全衛生化学物質対策課、環境省：国土交通大臣官庁府営官舎館部大気環境課）」

(12)「石綿含有廃棄物の安全管理マニュアル（第3版）」（環境省環境再生・資源循環局長）

(13)「建築工事の手引き」。福岡県建築都市部編集

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改訂内容で発注仕様の変更又は工事価格の変更が生ずる場合は、農担当事者と協議すること。

3. 現場に常備する図書等

1. 適用仕様等及び2.補足基準のうち、当該工事に従因を図書等については現場事務所へ常備し、監督職員の承認を得ること。

4. 特記仕様

(1)章および項目は番号に○印のついたものを使用する。

(2)特記事項のうち選択するものは、原則として※印を選択するが、それ以外を採用する場合は○印をつけて選択する。

(3)図面に明記なくとも関係法規上、機能上、意匠上当然と認められるものは、本工事に於て施すこと。

章	項目	特記事項																																												
一般事項	①発生材の処理	※18建設副産物の処理についての項を適用すること。 ※フロンの処理は、19フロン処理についての項を適用のこと。																																												
	②残土処分	※断り搬出・構内敷き出し																																												
	③官公署その他への手続き	この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手續等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を負担者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。																																												
	④機能試験	工事の内容に応じて、機能試験を行うこと。																																												
	⑤地中との取合い	※施設区分表により ○断面詳細による																																												
	⑥技能士の活用	住宅においては20戸以上、住宅以外の建物については1,500㎡以上の工事に適用する。																																												
仮設工事	⑦あと施工アンカー	◎配管（建築配管用作業） ◎建築金具（ダクト板金作業） ◎熱絶縁施工（保温保冷工作用） ◎冷暖空調機器施工（冷暖空調換気器施工用器具） あと施工アンカーの施工は、(一社)日本建築家と施工アンカー協会の有資格者に行うこと。																																												
	①監督員事務所	◎設けない ・設ける（10mm程度） 部品品については監督員の指示による。																																												
	②工事用水電・水、その他	この工事に必要ない工事用水電力（仮設及び試運転調整用電源を含む）、水（機能検査、消防用水及び灌漑の水を除く）及び諸手續などの費用は、すべて該負荷者の負担とする。																																												
	③総合設計計画	・要する ○要しない																																												
	④足場・構造	◎他工事 ・本工事（詳細図による。）																																												
	⑤仮囲いや危険防犯措置	◎他工事 ・本工事（詳細図による。）																																												
	⑥工事表示板等	監督員の指示による。																																												
⑦工事車両の出入口	工事車両の出入口は、一般通行人及び一般車道の安全確保に努めること。 交通安全員 ・配置する（名以上） ◎設置しない																																													
共通事項	①機材	この工事に使用する機材は、監督職員（係員）の承認を受けること。 なお、材料及び製品については、地域域での使用に努めると。																																												
	②容量等の表示	イ)機器類の能力、容量等（電動機出力）は、原則として、表示された数値以上とする。 ロ)電動機出力は、原則として、表示された出力以下の容量とする。 ハ)電動機の周波数は、60Hzとする。																																												
	③耐震施工	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 (1)設計用地震強度(Ks) 機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により下表より求める																																												
		<table><tr><th rowspan="2">設置場所</th><th colspan="4">特定の施設の耐震性</th><th colspan="4">C一般の施設</th></tr><tr><th>重要機器</th><th>重要水槽</th><th>一般機器</th><th>一般水槽</th><th>重要機器</th><th>重要水槽</th><th>一般機器</th><th>一般水槽</th></tr><tr><td>上層階、屋上及び塔屋</td><td>2.0 (2.0)</td><td>2.0</td><td>1.5 (2.0)</td><td>1.5 (2.0)</td><td>1.5 (2.0)</td><td>1.5 (2.0)</td><td>1.0 (1.5)</td><td>1.0</td></tr><tr><td>中間階</td><td>1.5 (1.5)</td><td>1.5</td><td>1.0 (1.5)</td><td>1.0 (1.5)</td><td>1.0 (1.5)</td><td>1.0 (1.5)</td><td>0.6 (0.4)</td><td>0.6</td></tr><tr><td>地下及び1階</td><td>1.0 (1.0)</td><td>1.5</td><td>0.6 (1.0)</td><td>0.6 (1.0)</td><td>1.0 (1.0)</td><td>1.0 (1.0)</td><td>0.4 (0.6)</td><td>0.6</td></tr></table> <p style="text-align:right;">( ) 書きの数値は防災機器</p>	設置場所	特定の施設の耐震性				C一般の施設				重要機器	重要水槽	一般機器	一般水槽	重要機器	重要水槽	一般機器	一般水槽	上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	1.0	中間階	1.5 (1.5)	1.5	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (0.4)	0.6	地下及び1階	1.0 (1.0)	1.5	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	1.0 (1.0)	1.0 (1.0)	0.4 (0.6)	0.6
	設置場所	特定の施設の耐震性				C一般の施設																																								
		重要機器	重要水槽	一般機器	一般水槽	重要機器	重要水槽	一般機器	一般水槽																																					
	上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)	1.0																																					
	中間階	1.5 (1.5)	1.5	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (0.4)	0.6																																					
	地下及び1階	1.0 (1.0)	1.5	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	1.0 (1.0)	1.0 (1.0)	0.4 (0.6)	0.6																																					
		*耐震安全性の分類 (・特定の施設 ◎一般の施設) *次を示す機器を、重要機器、重要水槽とし、それ以外の機器を一般機器、一般水槽とする。 *上層階の定義は、次のとおりとする。 2～9階の場合は最上階、7～9階建ての場合は上層2階、10～12階建ての場合は上層3階、13階以上の場合は上層1階																																												
	(2)地域係数(Z) 地域係数(Z)は、1.0とする。																																													
	給水管その他の管が、建築基準法施行令第112条第15項の耐火構築物の防火区画等を貫通する場合の措置は、同1による。																																													
	飲料水の給水・給湯管、継手、弁類、水栓等については、鉛に関する浸透性能基準を満たすこと。																																													
	呼び径100㎜以上はねじ接合、125㎜以上はフランジ接合とする。																																													
	図2による。 ※鋼材・ボルトナットを屋外又は多湿箇所を使用する場合は、溶融亜鉛メッキ（Zn35）又は、ステンレス鋼製（SUS304）とする。 埋設深さは150mm、テープ幅は150mm以上（図3）とし、色分けには次のように。 上水（青） ガス（緑） 排水管（赤） 中水（黄） 油（茶） その他については、監督職員（係員）の指示による。 ※標準仕様書による。・図示による。 コンクリート内の防水は、防水用ビニルテープ巻（1/2重なり1回巻）とする。 地中埋設は、ペトリウム系ベースト塗布のうえ、ペトリウム系防水テープ1/2重なり1回巻を行う。さらにプラスチックテープ1/2重なり1回巻を行う。継手は凹部分にペトリウム系マステックを詰め、表面を平滑にしたうえで防水シートで包み、プラスチックテープを1/2重なり1回巻とする。 イ)無筋コンクリートの配合は、1：2：4とする。 ロ)鉄筋コンクリートの設計強度は、18N/mm <sup>2</sup> とする。 既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の孔開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。事前に探査装置を使用して、コンクリート内部の配線を確認することは、電気工事士法に定める「電気工事」「軽微な工事」を自ら行うものは、電気工事業者の登録または届出及び電気工事士資格を有し、「経費的な作業」を自ら行うものは電気工事業者の登録または届出を要する ※特記なき電線管は、薄肉電線管又は同一外径のねじなし電線管とする。 ※可とう電線管は、2種金属導体電線管とする。 ※特記なき電線は、600Vビニル被覆電線とする。 この工事で設置する種類の仕様については、監督職員（係員）の承諾を受けなければならない。 掘削深度（1,500 mm以上）の掘削には矢張を使用すること。																																													
衛生器具	④大便器	・和風大便器（※浴室型） ・一般型	※防火カバー（防火区画貫通部）																																											
	⑤大便器洗浄方式	・洋風大便器（※浴室型） ・一般型	・高背面形）																																											
	⑥小便器	・フラッシュタイプ	・節水型FV（パキュームブレーカ付） ・タンク式																																											
	⑦小便器洗浄方式	・床置型 ・壁掛型																																												
	⑧洗面台	※専用洗浄方式 ・洗浄弁式																																												
	⑨洗面台化粧台	※洗面化粧台キャビネット部材は、ホルムアルデヒド放散量が日本規格（JAS）で定められた☆☆☆☆基準のものとする。																																												
	⑩水栓	※節水コマ付 ・普通コマ付																																												
	⑪水栓	・普通 ・逆止防射型 ・節水 ・逆射防止防射型	・身体障害者対応																																											
	⑫水栓柱	70°口×1300（※合成樹脂製） ・人研製 ・SUS製																																												
⑬器具取付	トイレブース内の紙巻器、リモコン類等についてはJIS S0026に則った配置とすること。																																													

	1. 量水器	※計量法 検定合格品とする。 ・親メーター（※貸与品 ※買取り）（直読式 ・遠隔式） ・子メーター（・貸与品 ※買取り）（直読式 ・遠隔式）
	2. 量水器別類 ⑤ 弁	・水道事業者指定品（・貸与品 ※買取り） ・国土交通省型 ・その他 ○水道直通部分 JIS（※10K ・ ） ・その他の部分 JIS（・5K ・10K） ・塩化ビニル管鋼管及びポリ粉体鋼管の配管に取付けする鉄製製の弁はライニング弁とし、青銅製弁は管端防食継手の規定に準じた管端コアを備えたものとする。 ・鉄製ストレーナーはライニングを施したものとする。 ・国土交通省型 図4による。
	4. 弁別類 給 ③ 配管材料	一般配管 ・塩化ライニング鋼管（SGP-VA） ○塩化ライニング鋼管（SGP-VB） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）・鉄鉄管（ 型 種） ・ステンレス鋼管（SUS）（圧縮検査・溶接検査・圧入検査） ・架橋ポリエチレンまたはポリブテン管（さや管工法）・金属強化ポリエチレン管 ビット内配管 ・塩化ライニング鋼管（SGP-VD）・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） 厨房、浴室等のシンダー内配管 ・塩化ライニング鋼管（SGP-VV） 屋内地中配管 ・塩化ライニング鋼管（SGP-VD）・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP） 屋外地中配管 ・塩化ライニング鋼管（SGP-VD）・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ○水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）・水道用硬質塩化ビニル管（VP） ・ポリエチレン管 1種（PE）（溶着接続・金属継手接続）
	6. 引出納付金等 7. ポンプ基礎 8. 他の設備項目の適用	※別途 標記基礎 ・防護基礎 下記のものは、空気調和設備の当該項目を適用する。 イ) 防振継手 ロ) 7457(※7457ハ) 防振吊り金物及び支持金物（ただし排水管のみ） ※標準図（・a） ・b） ※（c）スリークッション）による。 ○一般敷設 ○300mm ・ mm） ・構内車両通路（・600mm ・ mm） ※異なる（図5による。） 塩化ライニング鋼管と給排水、銅合金製配管付属品等との接続
	9. 建物導入部配管 ⑩ 音の埋込深さ 11. 器具接続用管端 防食管継手	
6	1. 配管材料	・汚水管 ・硬質塩化ビニル管(VP) ・耐火二層管 ・排水用塩化ビニル管鋼管 ・耐火性硬質ポリ塩化ビニル管(FS-VP) ・硬質塩化ビニル管(RF-VP) ビット内 ・雑排水管 ・配管用炭素鋼管(白) ・硬質塩化ビニル管(VP) ・カラ VP ・耐火二層管 ・排水用塩化ビニル管鋼管 ・耐熱硬質塩化ビニル管 ・耐火硬質塩化ビニル管(FS-VP) ・硬質塩化ビニル管(RF-VP) ビット内 ・屋外排水管・硬質塩化ビニル管(・VP・VV) ※呼び径125以上は原則としてVVとする。 ・小口径立上り管・リサイクル硬質塩化ビニル管(・FS-RSU) ・通気管・配管用炭素鋼管(白) ・硬質塩化ビニル管(VP) ・カラ VP ・耐火二層管 ・硬質塩化ビニル管(RF-VP) ビット内
	2. 管接合	・鋼管（ねじ込み式 ・剛継手 ・ ） ・排水用塩化ビニル管鋼管（・剛継手 ・ ）
	3. 可燃物の表面処理	図1による。
	4. 床下処理	特記以外JIS 5K とする。
	5. 床上掃除口直下の曲管	排水鉄骨系統の床上掃除口直下に取付ける管は45° 2回曲りとする。
	6. コンクリート掘ふた	図面詳細による。
	7. 小口径掘ふた	図面詳細による他、下記による。 ミカゲ（未塗装部） 鉄線（歩道部） 保護鉄線（車道部）（・T-8 ・T-14 ・T-25）
	8. 伸縮継手	ビルスリット伸縮継手
	9. グリーストラップ	空気調和・衛生工学会規格SHASE-S 217（グリース阻集器）によるものとする。
	10. 差込ソケット(VV)	排水流上下のビル製排水管には差込(VV) ソケットを使用すること。
	11. 漏水試験継手	図示による。
7	1. 管類	イ) ・ステンレス鋼管（圧縮検査・溶接検査） ・保溫付ステンレス鋼管 ・耐熱塩化ビニル管鋼管 ・鋼管 ・保溫付被覆鋼管 ・被覆断熱鋼管 ・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管（さや管工法） ・金属強化ポリエチレン管 ロ) 鋼管使用の場合はM管とし、電気防止継手を取付ける。 ※異なる（図5による。）
	2. 器具接続用管端 防食管継手	
	3. 弁類	JIS 5K とする。ただし、特記部分はJIS 10K とする。
	4. 排気筒及び煙突	ガス湯沸器排気筒は、JIS S 3025によるSUS304(厚さ0.3mm以上)とする。 ・排気筒の断熱（※要（掘る側の箇所のみ） ・不要） イ) 断熱水槽の保温（・要 ・不要） ロ) コンクリート埋設部（・防水布希布 ・保温施工） ・瞬間式 ・貯湯式 ・風呂給湯器（オートタイプ） ・ガス ・灯油 ・電気
	5. 保温	
	6. 湯沸器	
	7. 燃焼燃料	
8	1. 消火ポンプの基礎	・標準基礎 ・防護基礎
	2. フード井・呼吸槽及びサクションカバー	・要 ・不要
	3. 屋内消防栓	※減圧弁付
	4. 保溫温	・室内消防栓 ・要 ※不要 ・屋外露出消火管（※要 ・不要）
	5. 管類	・配管用炭素鋼管(白)(屋内) ・外面被覆鋼管（・SGP-VS ・SGP-PS）
	6. 消防設備士	※要
9	1. 種類	・都市ガス（ガス種 ※13A ・12A） ・液化石油ガス
	2. 管類	一般配管 ・配管用炭素鋼管(白) ・ガス用ステンレス製フレキシブル管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ビット内配管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 屋外埋設配管 ・ポリエチレン管JIS K 6774 イ) ガスメーター 観測メーターはガス供給事業者より借用し、子メーターは買取りとする。 イ) ガスメーター（・買取り ・借用） ロ) 集合装置（・別途工事 ※本工事） ハ) 転倒防止用の鎖（・別途工事 ※本工事） ニ) ボンベ置場のコンクリート基礎（※別途工事 ・本工事） 電動スイッチ（・要 ・不要） ・本工事 ・別途工事 ※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。 液化石油ガス設備士による施工とする。 （財）日本エネルギーガス検査協会、検査合格品とする。 ※要 ・不要 ・標準図（・a） ・b） ※（c）スリークッション）による。
	3. 都市ガス	
	4. 液化石油ガス	
	5. ガス湯沸器の付属品	
	6. ガス漏れ警報器	
	7. 施工資格	
	8. ガス栓	
	9. 絶縁継手	
	10. 建物導入部配管	
10	ダクトの種類	・低圧ダクト ・高圧ダクト
	③ 厨房ダクトの板厚	厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚は、表1による
	④ ダクトの工法・種類	イ) 給気用ダクト ・アングル工法 ○コーナースポルト工法（・共振・スライドオン） ○スパイラルダクト ・耐火二層管工法 ・VP工法 ロ) 排気用ダクト ・アングル工法 ○コーナースポルト工法（・共振・スライドオン） ○スパイラルダクト ・耐火二層管工法 ・VP工法 ※厨房排気は原則としてアングル工法とすること
	⑤ ダクトの分岐方法	イ) 給気用ダクト ※割込み方式 ・直付け方式 ロ) 排気用ダクト ※割込み方式 ・直付け方式 ※指定色仕上げ ・指定なし
	⑥ 換気フード	イ) 換気フードの補強及び支持金物、接材等は、亜鉛めっき板風の当該事項による。 ロ) 材質 ※ステンレス製 ・亜鉛めっき板風
	⑦ 多湿箇所の範囲	※厨房 ※浴室（シール有）
	8. 他の設備項目の適用	下記のものは、空気調和設備の当該項目を適用する。 イ) 風量測定器 ロ) チャンバー等 ハ) 吹出口及び吸込口の材質 ニ) 防塵ダンパー ホ) 消音内部付 ヘ) 防塵付金物
	⑨ 送風機の基礎	・床版（・標準基礎 ・防護基礎） ○天吊（標準図による。）

11

排煙設備

1. ダクトの材質

2. 排煙口

・亜鉛鉄板製

・普通鋼板製

イ) 形状

・スリット形

・パネル形

・ダンパ形

ロ) 開放装置

・手動

・手動及び遠隔操作可能なもの

12

自動制御設備

1. 中央監視制御

2. 中央監視制御装置の構成・機能

3. 電源装置

・要

・不要

別紙による。

・要(・本工事)

・別途電気工事)

・不要

① 室温調節数目標値

(※冷・暖開始前若しくは指定日に総合運転調整を行い、試運転成績表を提出すること)

13

空調設備

外気

室内

○ (一般系統)

・学校 (一般系統)

・学校 (厨房)

温度 (DB)

湿度 (WB)

湿度 (RH)

温度 (DB)

湿度 (WB)

湿度 (RH)

温度 (DB)

湿度 (WB)

湿度 (RH)

温度 (DB)

湿度 (WB)

湿度 (RH)

温度 (DB)

湿度 (WB)

湿度 (RH)

夏季

34.8℃

27.5℃

57.1%

26.0℃

18.7℃

50%

28.0℃

%

25.0℃

80%

%

冬季

1.8℃

-0.7℃

59.2%

22.0℃

13.9℃

40%

19.0℃

%

℃

%

② 電気工事の範囲

パッケージエアコン

※施工区分表による。

・図面詳細による。

イ) 冷暖

※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等)

ロ) 冷媒管

(※断熱材被覆銅管 (断熱厚さ: 液管10mm (液管の管径9.52mm以下は厚さ6mm)、ガス管20mm))

ハ) 冷媒管及びドレン管の区画処理

○有 (※国土交通大臣認定工法) ・その他) ・無)

ニ) ドレン管の材質

・配管用炭素鋼管 (白)

・カラーVP

・結露防止層付強化ビニル管 (VP)

ホ) 室外機の基礎

(・標準架台 ○防振架台)

ヘ) ※2015年省エネ基準適合品と対応する (各メーカー最高効率機種)

④ 配管材料

(N°アール712nを除く)

イ) 給水管

○塩化ビニリン鋼管 (SGP-VB) ・SGP-VA)

・耐熱塩化ビニリン鋼管

ロ) 冷水水管

・配管用炭素鋼管 (白)

○一般配管用ステンレス鋼管

ハ) 排水管

・配管用炭素鋼管 (白)

○硬質塩化ビニル管 (VP)

・カラーVP

・結露防止層付強化ビニル管

・硬質塩化ポリカクリル管 (RF-VP)

ニ) 冷却水管

※塩化ビニリン鋼管 (SGP-VB) ・

ホ) 高気及び油配管は配管用炭素鋼管 (黒) とする。

ヘ) 冷媒管 (・銅管 ○断熱材被覆銅管 (製造者標準品))

ト) 冷媒管の区画処理

○有 (※国土交通大臣認定工法) ・その他) ・無)

チ) 膨張管、安全管及び膨張水槽よりボイラへの給水管の配管材料は、一般配管用ステンレス鋼管とする。

5. 冷暖機類

6. 弁類

7. 排振継手

※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等)

・自然冷媒 (CO2, NH3)

JIS 5K とする。ただし特記部分は JIS 10K とする。

・ブローズ形

○合成ゴム製

○合成ゴム製

・3山ベローズ形

※長さ標準仕様書による。

○ベローズ形ステンレス製

・合成ゴム製

8. フレキシブルジョイント

○ベローズ形ステンレス製

・合成ゴム製

⑥ ダクト

イ) 種別

(※低圧ダクト) ・高圧ダクト)

ロ) 工法・種類

(○シングル工法) ○ローナーポート工法 (・平板 ・スライドラッドン)

○スパイラル工法) ・ステンレスダクト)

ハ) 分岐方式

(※斜辺入り方式 ・直付け方式)

標準仕様書によるほか、取付を図示された部分に取付ける。

イ) シーリングディフューザーには、下記の接続チャンパーを設ける。

a) ネット径が300φ以下

400×400×250H

b) ネット径が300φをこえるもの

500×500×300H

ロ) プリーズライン形吹出口には、下記の接続チャンパーを設ける。

a) シングル形

200×(L+100) ×300H

b) ダブル形

250×(L+100) ×300H

ハ) 外壁に通ずるガウリに直接取り付けチャンパー、ホッパーには排水弁を設ける。

イ) ユニバーサル形吹出口

・銅板製

※アルミ製

ロ) シーリングディフューザー

・銅板製

※アルミ製

ハ) 吸込口

・銅板製

※アルミ製 (外気吸込口には防虫網と付する。)

下記のものは本仕様による。

イ) 操作方式

・電気式

・空気式

ロ) 稼働方式

※遠隔式 (※電気式 ・空気式) ・手動式

ハ) 温度ヒューズ

(・取り付けない) ・取り付けない

ト) 表示用端子

(・設ける) ・設けない

銀板厚 (・4.5mm

※3.2mm)

⑩ 風量測定口

11. チャンパー等

⑫ 吹き出し、吸込口の材質

(シャッター共)

13. 防振ダンパー

下記のものは本仕様による。

イ) 構造形式

・電気式

・空気式

ロ) 稼働方式

※遠隔式 (※電気式 ・空気式) ・手動式

ハ) 温度ヒューズ

(・取り付けない) ・取り付けない

ト) 表示用端子

(・設ける) ・設けない

銀板厚 (・4.5mm

※3.2mm)

14. 煙道

銀板厚 (・4.5mm

※3.2mm)

⑬ 換気

下記のものは本仕様による。

イ) 建築物内空気を換気の保溫は、空気抜き弁までとし、仕様は温水管の項による。

ロ) 空気調和機・ファンコイルユニット等の排水管の保溫は、給排水衛生設備の排水管の項による。

ハ) 通り風道の保溫 (・要

○不要)

ニ) 廊下排水槽の保溫

○要

・不要)

ホ) 内貼りチャンパー等の保溫 (・要

○不要)

ヘ) 廊下風道の保溫でフラジ型は保溫材を敷きねすとする。

イ) 内貼りの材料及び施工方法は、標準仕様書の取扱い事項による。

ロ) 施工箇所は、図示した風道並びにチャンパー類とする。

ハ) 内貼りチャンパー類の寸法表示は、外形寸法とする。

⑮ 機械室 (配管・風道) のつり金物

イ) パッケージ形空気調和機 (・防振バット

※木台

※転倒防止処理)

ロ) ユニット形空気調和機 (・標準架台

○防振架台)

ハ) 送風機 (・標準架台 ○防振架台)

ニ) ポンプ (・標準架台 ・防振架台)

ホ) 冷凍機 (・標準架台 ・防振架台)

ヘ) チャーユニット (・標準架台 ・防振架台)

○防振つり金物

○シングル

・ダブル) (・中央機室

○各用機械室)

⑯ 温度計

※標準仕様書による。

⑰ 圧力計及び連成計

※標準仕様書による。

⑱ 瞬間流量計

※要 (※標準仕様書による) ・図示による。)

・不要

⑲ ファンコイルユニット用調節弁

・定流量弁 (流量設定が可能なもの)

○小型電動2方弁

○ボール弁×2

23. 油サービスタック

イ) 防油堤 (コンクリート製)

※別途工事

・本工事

ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。

・給油ポンプの起動、停止

・減油警報

・減油警報

ハ) 油面計 (・フロート式

・ゲージ式)

イ) タク室

・設けられない

・設ける (・別途工事

・本工事)

ロ) 計量器 (・計量尺・直読式 (防水重量スプリング付、プロテクター共)

・遠隔式)

ハ) 土工事

・オープンカット

・矢板 (・有

・無)

・特殊基礎 (・有

・無)

⑳ 予備品

※ファンコイルユニット付属品

イ) 運転表示ランプ

台数の1/2以上

ロ) フィルター

各型番台数の1/2以上

※自動巻取り空気濾過用フィルター (各1巻)

※ユニット形空気濾過器

個

26. アワーメーター

※要 (指定機器)

・不要

27. 度数計

※要 (指定機器)

・不要

28. 煤煙濃度計

・設ける

29. ばいじん濃度測定孔

・設ける (標定の直径部に直径80φ以上のフランジ付とする。)

・設けない

R 4 - 5

R 6 年 月 日

工事名称

サンコスモ古賀空調設備改修工事

特記仕様書 (1)

工事場所

福岡県古賀市庄205番地

図番

M-01 号

設計者

株式会社 緑企画設計

一級建築士事務所 福岡県知事登録第1-11755号

福岡支店

一級建築士 (大匠) 第262654号 橋 知克

14	設備 準備	※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。												
		※浄化槽仕様書による。												
15	設備 準備													
16	管類	給排水衛生設備	保温仕様	仕 様	施 工 箇 所	保 温 種 別				区 別				
										給水管	排水管	給湯管	給排水	ガス管
管類については○印を塗りつぶしたものを適用する	管類	給排水衛生設備	保温仕様	仕 様	屋 内 露 出	1. グラスウール 2. 断熱 3. 合成樹脂断熱カバー								
					機 械 室・倉 庫	1. グラスウール 2. 断熱 3. アルミガラスクロス 4. 断熱								
					天井内・PS内・空腔壁中	1. アルミガラスクロス化粧付 グラスウール保温断熱 2. アルミガラスクロス 断熱テープ								
					床 下・暗 渠 内	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. 着色アルミガラス クロス								
					床下・暗渠内・コクリート内	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. 着色アルミガラス クロス								
					屋外露出・多湿箇所	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. ステンレス鋼板 ・ガルバリウム鋼板								
					屋外露出・多湿箇所	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. ステンレス鋼板 ・ガルバリウム鋼板								
					黒 管 塗 装	1. 断止めペイント (2箇所)								
					白 管 塗 装	1. エンタング プライマー 2. 断止めペイント (1箇所)								
					施 工 箇 所	保 温 種 別								
					屋 内 露 出	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. 合成樹脂断熱カバー								
					屋 内 露 出	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. 合成樹脂断熱カバー								
					屋 内 露 出	1. 断熱断熱の断熱材 2. 保温化粧ケース								
					機 械 室・倉 庫	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. アルミガラスクロス 化粧断熱								
					機 械 室・倉 庫	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. アルミガラスクロス								
管類については○印を塗りつぶしたものを適用する	管類	給排水衛生設備	保温仕様	仕 様	天井内・PS内・空腔壁中	1. アルミガラスクロス化粧付 グラスウール保温断熱 2. アルミガラスクロス 断熱テープ								
					天井内・PS内・空腔壁中	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. アルミガラスクロス								
					天井内・PS内・空腔壁中	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. アルミガラスクロス								
					床下・暗渠内・コクリート内	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. 着色アルミガラス クロス								
					床下・暗渠内・コクリート内	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. 着色アルミガラス クロス								
					床下・暗渠内・コクリート内	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. 着色アルミガラス クロス								
					屋外露出・多湿箇所	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレン フィルム 4. ステンレス鋼板 ・ガルバリウム鋼板								
					屋外露出・多湿箇所	1. ポリエチレン フォーム保温断熱 2. 断熱テープ 3. ポリエチレン フィルム 4. ステンレス鋼板 ・ガルバリウム鋼板								
					屋外露出・多湿箇所	1. 断熱断熱の断熱材 2. 保温化粧ケース								
	管類	給排水衛生設備	保温仕様											

建設副産物の処理について	資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。 現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。 また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。 工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。																			
	指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物																		
	○がれき類 （コンクリート塊） （アスファルト塊）  ・木くず ・汚泥	・廃プラスチック  ・ガラス、陶磁器くず  ・廃石こうボード  ○金属くず ○繊維くず																		
	特別管理産業廃棄物																			
	・廃石綿等 1. 除去処理 アスベスト含有保温材等（煙突用断熱材は除く）の除去は可能なかび粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらしで行う事。手ばらし以外の除去（グループバック方式による除去は除く）の場合は、「改修仕様」9.1.3および「改修指針」9.1.3による。 2. 汚染物処分 （1）除去したアスベスト含有保温材等の処理方法は、「改修仕様」9.1.3（b）（2）及び「改修指針」9.1.3（b）（2）により、密封処理する。 （2）施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚機車を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させない事。なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修仕様」9.1.3（c）及び「改修指針」9.1.3（c）による。																			
	・廃PCB等 「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。																			
	※参考受入場所は現場説明書による																			
	建設副産物の処理内容																			
	<table><tr><th>処 理 内 容</th><th>備 考</th></tr><tr><td>現 場 内 に お け る 分 別</td><td>○</td></tr><tr><td>現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置</td><td>○</td></tr><tr><td>現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬</td><td>○</td></tr><tr><td>分別保管場所からの積込み・運搬・処分</td><td>○</td></tr><tr><td>「建設副産物の処置計画書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「建設副産物の処理結果報告書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「再生資源利用計画書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr><tr><td>「再生資源利用実施書」の作成</td><td>下請工事の場合は不要</td></tr></table>		処 理 内 容	備 考	現 場 内 に お け る 分 別	○	現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置	○	現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬	○	分別保管場所からの積込み・運搬・処分	○	「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要
	処 理 内 容	備 考																		
現 場 内 に お け る 分 別	○																			
現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置	○																			
現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬	○																			
分別保管場所からの積込み・運搬・処分	○																			
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要																			
フロンの処理について	「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。																			
	<table><tr><td>発注者（施設管理者）</td><td>業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書、業者登録書のコピー</td></tr><tr><td>工事請負業者</td><td>フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書</td></tr><tr><td>第1種フロン類充てん回収業者</td><td>引取証明書 業者登録書のコピー</td></tr><tr><td>フロン類破壊・再生業者</td><td>引取証明書、業者登録書のコピー</td></tr></table>		発注者（施設管理者）	業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書、業者登録書のコピー	工事請負業者	フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書	第1種フロン類充てん回収業者	引取証明書 業者登録書のコピー	フロン類破壊・再生業者	引取証明書、業者登録書のコピー										
	発注者（施設管理者）	業務用冷凍空調機器の有無の確認 確認結果を書面で説明 フロン回収証明書、業者登録書のコピー																		
	工事請負業者	フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書																		
	第1種フロン類充てん回収業者	引取証明書 業者登録書のコピー																		
	フロン類破壊・再生業者	引取証明書、業者登録書のコピー																		
	※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付すること。																			
	※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。																			
	20	水道配管設備	3. 接続の防止対策																	
	1. 水源 2. 配管材料	・雨水 ・雑用水処理水 ・井水 一般配管 ・塩化ビニル配管（SGP-VA） ・塩化ビニル配管（SGP-VB） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）（屋内） ・ステンレス鋼管（SUS）（圧縮接続・溶接接続・拡管接続） ・塩化ビニル配管（SGP-VD） ・塩化ビニル配管（SGP-VF） ・塩化ビニル配管（SGP-VG） ・塩化ビニル配管（SGP-VH） ・塩化ビニル配管（SGP-VI） ・塩化ビニル配管（SGP-VJ） ・塩化ビニル配管（SGP-VK） ・塩化ビニル配管（SGP-VL） ・塩化ビニル配管（SGP-VM） ・塩化ビニル配管（SGP-VN） ・塩化ビニル配管（SGP-VO） ・塩化ビニル配管（SGP-VP） ・塩化ビニル配管（SGP-VQ） ・塩化ビニル配管（SGP-VR） ・塩化ビニル配管（SGP-VS） ・塩化ビニル配管（SGP-VT） ・塩化ビニル配管（SGP-VU） ・塩化ビニル配管（SGP-VV） ・塩化ビニル配管（SGP-VW） ・塩化ビニル配管（SGP-VX） ・塩化ビニル配管（SGP-VY） ・塩化ビニル配管（SGP-VZ） ・塩化ビニル配管（SGP-VA） ・塩化ビニル配管（SGP-VB） ・塩化ビニル配管（SGP-VC） ・塩化ビニル配管（SGP-VD） ・塩化ビニル配管（SGP-VE） ・塩化ビニル配管（SGP-VF） ・塩化ビニル配管（SGP-VG） ・塩化ビニル配管（SGP-VH） ・塩化ビニル配管（SGP-VI） ・塩化ビニル配管（SGP-VJ） ・塩化ビニル配管（SGP-VK） ・塩化ビニル配管（SGP-VL） ・塩化ビニル配管（SGP-VM） ・塩化ビニル配管（SGP-VN） ・塩化ビニル配管（SGP-VO） ・塩化ビニル配管（SGP-VP） ・塩化ビニル配管（SGP-VQ） ・塩化ビニル配管（SGP-VR） ・塩化ビニル配管（SGP-VS） ・塩化ビニル配管（SGP-VT） ・塩化ビニル配管（SGP-VU） ・塩化ビニル配管（SGP-VV） ・塩化ビニル配管（SGP-VW） ・塩化ビニル配管（SGP-VX） ・塩化ビニル配管（SGP-VY） ・塩化ビニル配管（SGP-VZ） ・塩化ビニル配管（SGP-VA） ・塩化ビニル配管（SGP-VB） ・塩化ビニル配管（SGP-VC） ・塩化ビニル配管（SGP-VD） ・塩化ビニル配管（SGP-VE） ・塩化ビニル配管（SGP-VF） ・塩化ビニル配管（SGP-VG） ・塩化ビニル配管（SGP-VH） ・塩化ビニル配管（SGP-VI） ・塩化ビニル配管（SGP-VJ） ・塩化ビニル配管（SGP-VK） ・塩化ビニル配管（SGP-VL） ・塩化ビニル配管（SGP-VM） ・塩化ビニル配管（SGP-VN） ・塩化ビニル配管（SGP-VO） ・塩化ビニル配管（SGP-VP） ・塩化ビニル配管（SGP-VQ） ・塩化ビニル配管（SGP-VR） ・塩化ビニル配管（SGP-VS） ・塩化ビニル配管（SGP-VT） ・塩化ビニル配管（SGP-VU） ・塩化ビニル配管（SGP-VV） ・塩化ビニル配管（SGP-VW） ・塩化ビニル配管（SGP-VX） ・塩化ビニル配管（SGP-VY） ・塩化ビニル配管（SGP-VZ） ・塩化ビニル配管（SGP-VA） ・塩化ビニル配管（SGP-VB） ・塩化ビニル配管（SGP-VC） ・塩化ビニル配管（SGP-VD） ・塩化ビニル配管（SGP-VE） ・塩化ビニル配管（SGP-VF） ・塩化ビニル配管（SGP-VG） ・塩化ビニル配管（SGP-VH） ・塩化ビニル配管（SGP-VI） ・塩化ビニル配管（SGP-VJ） ・塩化ビニル配管（SGP-VK） ・塩化ビニル配管（SGP-VL） ・塩化ビニル配管（SGP-VM） ・塩化ビニル配管（SGP-VN） ・塩化ビニル配管（SGP-VO） ・塩化ビニル配管（SGP-VP） ・塩化ビニル配管（SGP-VQ） ・塩化ビニル配管（SGP-VR） ・塩化ビニル配管（SGP-VS） ・塩化ビニル配管（SGP-VT） ・塩化ビニル配管（SGP-VU） ・塩化ビニル配管（SGP-VV） ・塩化ビニル配管（SGP-VW） ・塩化ビニル配管（SGP-VX） ・塩化ビニル配管（SGP-VY） ・塩化ビニル配管（SGP-VZ） ・塩化ビニル配管（SGP-VA） ・塩化ビニル配管（SGP-VB） ・塩化ビニル配管（SGP-VC） ・塩化ビニル配管（SGP-VD） ・塩化ビニル配管（SGP-VE） ・塩化ビニル配管（SGP-VF） ・塩化ビニル配管（SGP-VG） ・塩化ビニル配管（SGP-VH） ・塩化ビニル配管（SGP-VI） ・塩化ビニル配管（SGP-VJ） ・塩化ビニル配管（SGP-VK） ・塩化ビニル配管（SGP-VL） ・塩化ビニル配管（SGP-VM） ・塩化ビニル配管（SGP-VN） ・塩化ビニル配管（SGP-VO） ・塩化ビニル配管（SGP-VP） ・塩化ビニル配管（SGP-VQ） ・塩化ビニル配管（SGP-VR） ・塩化ビニル配管（SGP-VS） ・塩化ビニル配管（SGP-VT） ・塩化ビニル配管（SGP-VU） ・塩化ビニル配管（SGP-VV） ・塩化ビニル配管（SGP-VW） ・塩化ビニル配管（SGP-VX） ・塩化ビニル配管（SGP-VY） ・塩化ビニル配管（SGP-VZ） ・塩化ビニル配管（SGP-VA） ・塩化ビニル配管（SGP-VB） ・塩化ビニル配管（SGP-VC） ・塩化ビニル配管（SGP-VD） ・塩化ビニル配管（SGP-VE） ・塩化ビニル配管（SGP-VF） ・塩化ビニル配管（SGP-VG） ・塩化ビニル配管（SGP-VH） ・塩化ビニル配管（SGP-VI） ・塩化ビニル配管（SGP-VJ） ・塩化ビニル配管（SGP-VK） ・塩化ビニル配管（SGP-VL） ・塩化ビニル配管（SGP-VM） ・塩化ビニル配管（SGP-VN） ・塩化ビニル配管（SGP-VO） ・塩化ビニル配管（SGP-VP） ・塩化ビニル配管（SGP-VQ） ・塩化ビニル配管（SGP-VR） ・塩化ビニル配管（SGP-VS） ・塩化ビニル配管（SGP-VT） ・塩化ビニル配管（SGP-VU） ・塩化ビニル配管（SGP-VV） ・塩化ビニル配管（SGP-VW） ・塩化ビニル配管（																		

図1 防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第129条の2の4第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

- 防火区画等の貫通部分及び高側1m以内を不燃材料で造ること。(右参考図参照)  
※ 耐火二層管は不燃材料に該当せず、後述の3.に従う。
- 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。(下表)  
(難燃材料又は硬質塩化ビニル管(VP)を用いる場合)

用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径			
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造	2時間耐火構造
給水管		5.5mm以上	90mm(75)			
		6.6mm以上	115mm(100)		90mm	
		4.1mm以上	61mm(50)			
排水管及び排水管に付属する通気管	無し	5.5mm以上	90mm(75)		61mm	
		6.6mm以上	115mm(100)		90mm	
		6.6mm以上	90mm(75)		61mm	
		7.0mm以上	141mm(125)		115mm	
	厚さ0.5mm以上の鉄板の覆い有り	90mm(75)		90mm		
		6.6mm以上	115mm(100)		90mm	
		7.0mm以上	141mm(125)		115mm	

※表中の( )内は適合可能な硬質塩化ビニル管(JIS K 6741のVU管を除く)の呼び径寸法を示す。  
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の内厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

3. 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例1) 硬質塩化ビニル管(RF-VP)に防火区画貫通用テープを用いる場合(右参考図参照)

例2) 耐火二層管を認定条件に従って施工する場合  
(立管はすべて耐火二層管とし、根管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など)

図2 機器の吊り施工例

吊り長さが700mm以上、かつ重量10kg以上の設備機器については四隅を鉛直吊りボルトで支持し、降り合う2本毎にX状斜材を締め具で堅固に取り付けて、天井との相関変位を抑制すること

対象 吊り長さL ≥ 700 mm  
機器重量W ≥ 10 kg

※ ただし、

- ・天井吊形のファンコイル
- ・天井吊形又はカセット形の空調機と機室内機
- ・天井隠ぺい形全熱交換ユニット

の設置は、上記にかかわらず全て吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したとする

図3 配管埋設参考

埋設深さH

1	300以上
2	600以上
3	以上

図4 井桝

VC-1~VC-5

VC-P

注(イ) 本表のB及びH寸法は、5K仕切井を対象とする。  
(ロ) コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。なおコンクリート部は工場製品でもよい。  
(ハ) 桝底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

図5 異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。使用箇所例を下記に示す。

1. 砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（コア入りバルブは除く。）

2. 衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部

3. マイクロエアバンド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部  
絶縁エルボ又は絶縁オスメスソケットを使用すること。
4. 水道メーター（砲金）、伸縮弁（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部

5. 水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部
6. 上記以外の異種金属接続部

表1 厨房排気ダクトの板厚

厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による

〔単位：mm〕

ダクトの長辺	板厚	
	亜鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	

※ 原則、アングルフランジ工法にてシールを施すこと

参 考 図

参考図1 水槽類埋設

参考図2 ドロップ樹参考図

（※副管サイズは主管サイズより1サイズ下でも可。）

参考図3 小口径樹取付要領図

R4-5

R6年 月 日

工事名称	サンコスモ古賀空調設備改修工事	特記仕様書（2）
工事場所	福岡県古賀市栢205番地	図番 M-02 号
設計者	<b>株式会社 緑企画設計</b> 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11756号 福岡支店 一級建築士（大匠）第262654号 橋 知克	

改修空調機器表（1）								
記 号	名 称		機 器 性 能	電圧	消費電力kW	台数	設置場所	備 考
R R－1	空冷式HPチラー		冷却能力 118kW、加熱能力 118kW	3－2 0 0	冷房：32.68	2	1階 屋上	再使用機器
	(三菱電機 CAHV-MP180B)		冷水：13.5℃→6.5℃、温水：39℃→46℃、冷温水量241L/min		暖房：32.41			
R R－2	空冷式HPチラー		冷却能力 180kW、加熱能力 180kW	3－2 0 0	冷房：55.9	1	1階 屋上	再使用機器
	(三菱電機 CAHV-MP180B)		冷水：13.5℃→6.5℃、温水：39℃→46℃、冷温水量368L/min		暖房：53.09			
P C H－1	冷温水ポンプ（RR－1用）		片吸込渦巻ポンプ	3－2 0 0	5.5	2	1階 機械室（地下）	再使用機器
	荏原製作所（65×50FSGD65.5E）		65A×50A×550L/min×30m×5.5kW（自動交互運転）					
P C H－2	冷温水ポンプ（RR－1用）		片吸込渦巻ポンプ	3－2 0 0	3.7	2	1階 機械室（地下）	再使用機器
	荏原製作所（50×40FSGD63.7E）		50A×40A×370L/min×31m×3.7kW（自動交互運転）					
P C H-3	冷温水ポンプ		片吸込渦巻ポンプ	3－2 0 0	5.5	2	1階 機械室（地下）	再使用機器
	テラル（SJ4 80×65H65.5）		80A×1180L/min×14m×5.5kW（自動交互運転）					
S C H－4	冷温水ポンプ		片吸込渦巻ポンプ	3－2 0 0	11.0	2	2階 機械室（3）	再使用機器
	テラル（SJ4 80×65J611）		80A×1180L/min×34m×11kW（自動交互運転）					
H C H S－1	冷温水ヘッダー（往）		配管用炭素鋼管（黒）製架台付ヘッダー、溶融亜鉛メッキ仕上げ			1	2階 機械室（3）	
			250φ×2100L、150A・100A×3・40A、ﾄﾞﾚ50A、					
			（参考）本体210kg、架台45kg					
H C H S－2	冷温水ヘッダー（往）		配管用炭素鋼管（黒）製架台付ヘッダー、溶融亜鉛メッキ仕上げ			1	2階 機械室（3）	
			250φ×2920L、100A×6・65A、ﾄﾞﾚ50A、					
			（参考）本体260kg、架台45kg					
H C H R－1	冷温水ヘッダー（返）		配管用炭素鋼管（黒）製架台付ヘッダー、溶融亜鉛メッキ仕上げ			1	2階 機械室（3）	
			250φ×1060L、150A×2・32A、ﾄﾞﾚ50A、					
			（参考）本体150kg、架台45kg					
H E－1	熱交換器		SUS製プレート型熱交換器			1	1階 機械室（1）	再使用機器
			交換熱量 767kW					
			1次側：1571L/min（冷水温度入口 6.5℃→出口13.5℃）					
			（温水温度入口 46.0℃→出口39.0℃）					
			2次側：1571L/min（冷水温度入口 14.5℃→出口7.5℃）					
			（温水温度入口 38.0℃→出口45.0℃）					
T E－1	膨張水槽		ステンレス製開放式膨張水槽			1	3階 高架水槽置場	
			容量（有効）100L、500×500×600h、平架台、25φボールタップ共、					
A C－1	空調機（1階保険ｼｬｰ系統）		垂直方型エアハンドリングユニット（全外気型）			1	2階 機械室（4）	
			総風量 2100m3/h×270Pa	3－2 0 0	1.5			
			冷却能力 23.5kW					
			加熱能力 23.9kW					
			冷温水量：49L/min（冷水温度入口 7.5℃→出口14.5℃）					
			（温水温度入口 45.0℃→出口38.0℃）					
			入口空気： 冷却 33.4℃DB 26.9℃WB					
			加熱 0.9℃DB -2.3℃WB					
			気化式加湿器 11.6L/h（有効）、フィルター NBS60%以上	1－2 0 0	0.015			
			（参考）外形寸法 2200×1000×1540(830)h、重量 600kg					

撤去空調機器表（1）								
記 号	名 称		機 器 性 能	電圧	参考消費電力	台数	設置場所	備 考
A C－2	空調機（1階ｼﾞｬｰﾋﾞｽ系統）		垂直方型エアハンドリングユニット（全外気型）			1	2階 機械室（3）	
			送風量 6600m3/h×350Pa	3－2 0 0	3.7			
			冷却能力 73.5kW					
			加熱能力 75.0kW					
			冷温水量：154L/min（冷水温度入口 7.5℃→出口14.5℃）					
			（温水温度入口 45.0℃→出口38.0℃）					
			入口空気： 冷却 33.4℃DB 26.9℃WB					
			加熱 0.9℃DB -2.3℃WB					
			気化式加湿器 36.4L/h（有効）、フィルター NBS60%以上	1－2 0 0	0.015			
			（参考）外形寸法 2200×1400×1890(980)h、重量 850kg					
A C－3	空調機（1階事務室系統）		垂直方型エアハンドリングユニット（全外気型）			1	2階 機械室（3）	
			送風量 5200m3/h×380Pa	3－2 0 0	3.7			
			冷却能力 58.2kW					
			加熱能力 59.3kW					
			冷温水量：122L/min（冷水温度入口 7.5℃→出口14.5℃）					
			（温水温度入口 45.0℃→出口38.0℃）					
			入口空気： 冷却 33.4℃DB 26.9℃WB					
			加熱 0.9℃DB -2.3℃WB					
			気化式加湿器 28.7L/h（有効）、フィルター NBS60%以上	1－2 0 0	0.015			
			（参考）外形寸法 2200×1200×1790(980)h、重量 750kg					
A C－4	空調機（2階ﾌﾞﾚｲﾙ-4系統）		垂直方型エアハンドリングユニット（全外気型）			1	2階 機械室（3）	
			送風量 5000m3/h×280Pa	3－2 0 0	2.2			
			冷却能力 55.9kW					
			加熱能力 60.0kW					
			冷温水量：117L/min（冷水温度入口 7.5℃→出口14.5℃）					
			（温水温度入口 45.0℃→出口38.0℃）					
			入口空気： 冷却 33.4℃DB 26.9℃WB					
			加熱 0.9℃DB -2.3℃WB					
			気化式加湿器 27.6L/h（有効）、フィルター NBS60%以上	1－2 0 0	0.015			
			（参考）外形寸法 2200×1200×1690(880)h、重量 750kg					
A C－5	空調機（1階すこやかホール）		垂直方型エアハンドリングユニット			1	2階 機械室（4）	
			送風量 8500m3/h×510Pa	3－2 0 0	5.5			
			冷却能力 67.5kW					
			加熱能力 45.4kW					
			冷温水量：139L/min（冷水温度入口 7.5℃→出口14.5℃）					
			（温水温度入口 45.0℃→出口38.0℃）					
			入口空気： 冷却 28.9℃DB 22.2℃WB					
			加熱 13.6℃DB 8.3℃WB					
			気化式加湿器 19.4L/h（有効）、フィルター NBS60%以上	1－2 0 0	0.015			
			（参考）外形寸法 2200×1700×1990(1080)h、重量 1,100kg					
A C－6	空調機（3階展望室）		垂直方型エアハンドリングユニット			1	3階 高架水槽置場	
			送風量 5300m3/h×200Pa	3－2 0 0	2.2			
			冷却能力 30.8kW					
			加熱能力 30.0kW					
			冷温水量：58L/min（冷水温度入口 7.5℃→出口14.5℃）					
			（温水温度入口 45.0℃→出口38.0℃）					
			入口空気： 冷却 26.8℃DB 19.8℃WB					
			加熱 19.6℃DB 12.4℃WB					
			気化式加湿器 3.2L/h（有効）、フィルター NBS60%以上	1－2 0 0	0.015			
			（参考）外形寸法 1900×1200×1790(980)h、重量 750kg					

改修空調機器表（2）

記 号	名 称		機 器 性 能	電圧	消費電力kW	台数	設置場所	備 考
F C U-2	ファンコイル		カセット型（2方向吹出） #200	1－1 0 0	0.046	9	各室	
	（高温度差小水量型）		冷房能力 （顕熱）1.77kW（全熱）1.35kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）2.14kW（22℃DB）					
			冷温水量 3.1L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C U-3	ファンコイル		カセット型（2方向吹出） #300	1－1 0 0	0.071	8	各室	
	（高温度差小水量型）		冷房能力 （顕熱）2.11kW（全熱）2.87kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）3.33kW（22℃DB）					
			冷温水量 5.5L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C U-4	ファンコイル		カセット型（2方向吹出） #400	1－1 0 0	0.083	23	各室	
	（高温度差小水量型）		冷房能力 （顕熱）2.72kW（全熱）3.60kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）4.03kcal/h（22℃DB）					
			冷温水量 6.2L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C U-6	ファンコイル		カセット型（2方向吹出） #600	1－1 0 0	0.086	7	各室	
	（高温度差小水量型）		冷房能力 （顕熱）3.66kW（全熱）4.81kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）5.39kW（22℃DB）					
			冷温水量 8.1L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C U-8	ファンコイル		カセット型（2方向吹出） #800	1－1 0 0	0.165	5	1階会議室	
	（高温度差小水量型）		冷房能力 （顕熱）5.10kW（全熱）6.71kW（26℃DB、18.7℃WB）				1階第1・2・3健診室	
			暖房能力 （全熱）7.48kW（22℃DB）					
			冷温水量 11.1L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C I-4	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #400	1－1 0 0	0.053	1	1階売店	
	（高温度差小水量型）		総風量 460m3/h×50Pa					
			冷房能力 （顕熱）2.20kW（全熱）2.63kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）3.34kW（22℃DB）					
			冷温水量 4.3L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C I-6	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #600	1－1 0 0	0.061	2	各室	
	（高温度差小水量型）		総風量 660m3/h×50Pa					
			冷房能力 （顕熱）2.93kW（全熱）2.961kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）4.16kW（22℃DB）					
			冷温水量 4.5L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C I-8	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #800	1－1 0 0	0.094	12	各室	
	（高温度差小水量型）		総風量 970m3/h×50Pa					
			冷房能力 （顕熱）4.29kW（全熱）5.01kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）5.98kW（22℃DB）					
			冷温水量 9.4L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C I-12	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #1200	1－1 0 0	0.126	17	各室	
	（高温度差小水量型）		総風量 1310m3/h×50Pa					
			冷房能力 （顕熱）5.57kW（全熱）6.32kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）7.83kW（22℃DB）					
			冷温水量 11.91L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C I-3-2	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #300	1－1 0 0	0.046	1	脱衣室	再使用機器
	（ﾀﾞｲﾔﾓ工業FWMF35FEH）		総風量 510m3/h×5mmAq				（機械浴槽給気用）	
			冷房能力 （顕熱）2.38kW（全熱）2.86 kW（27℃DB、19℃WH）					
			暖房能力 （全熱）5.32kW（20℃DB）					
			冷温水量 4.1L/min（冷水7℃、温水60℃；出入口温度差5℃）					

改修空調機器表（2）

記 号	名 称		機 器 性 能	電圧	参考消費電力	台数	設置場所	備 考
F C I-6-2	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #600	1－1 0 0	0.065	1	脱衣室	
			総風量 960m3/h×5mmAq				（大浴場給気用）	再使用機器
			冷房能力 （顕熱）4.37kW、（全熱）5.30 kW（27℃DB、19℃WH）					
			暖房能力 （全熱）9.71kW（20℃DB）					
			冷温水量 7.6L/min（冷水7℃、温水60℃；出入口温度差5℃）					
F C C-4	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #400	1－1 0 0	0.053	2	各室	
	（高温度差小水量型）		総風量 460m3/h×80Pa（高静圧型）					
			冷房能力 （顕熱）2.17kW（全熱）2.561kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）3.14kW（22℃DB）					
			冷温水量 5.1L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C C-6	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #600	1－1 0 0	0.102	4	各室	
	（高温度差小水量型）		総風量 660m3/h×80Paq（高静圧型）					
			冷房能力 （顕熱）2.85kW（全熱）2.891kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）3.90kW（22℃DB）					
			冷温水量 5.2L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
F C C-8	ファンコイル		天井埋込ダクト型 #800	1－1 0 0	0.193	29	各室	
	（高温度差小水量型）		総風量 970m3/h×80Pa（高静圧型）					
			冷房能力 （顕熱）4.35kW（全熱）5.17kW（26℃DB、18.7℃WB）					
			暖房能力 （全熱）6.10kW（22℃DB）					
			冷温水量 10.1L/min（冷水7.5℃、温水45℃；出入口温度差7℃）					
	ファンコイル用コントローラー		全体（1 F×4 3+2 F×1 2）5 5個			55	各室	自動制御設備に支給品
A C P-1	空冷HPマルチエアコン	室外機	冷房能力 28 kW 暖房能力 31.5 kW（J I S条件）	3－2 0 0	7.53	1	屋上室外機置場	再使用機器
	（日立RAS-AP280DG3）		圧縮機 6.0 kW、防振架台共					
A C P-1 A	空冷HPマルチエアコン	室内機	天井カセット型（2方向吹出）	1－2 0 0	0.03	1	1階診療所薬局	再使用機器
			冷房能力 2.8 kW 暖房能力 3.2 kW（J I S条件）					
A C P-1 B	空冷HPマルチエアコン	室内機	天井カセット型（2方向吹出）	1－2 0 0	0.03	4	各所	再使用機器
			冷房能力 3.6 kW 暖房能力 4.0 kW（J I S条件）					
A C P-1 C	空冷HPマルチエアコン	室内機	天井カセット型（2方向吹出）	1－2 0 0	0.05	3	1階診療所休憩更衣室	再使用機器
			冷房能力 4.5 kW 暖房能力 5.0 kW（J I S条件）				1階内科・小児科	
A C P-2	空冷HPマルチエアコン	室外機	冷房能力 45 kW 暖房能力 50 kW（J I S条件）	3－2 0 0	14.4	1	屋上室外機置場	
			圧縮機 11.8 kW、防振架台共					
			（参考）外形寸法 1,650h×1220×740、重量250kg、冷媒 R32					
A C P-2 A	空冷HPマルチエアコン	室内機	天井カセット型（2方向吹出）	1－2 0 0	0.07	4	2階会議室（203・204）	
			冷房能力 7.1 kW 暖房能力 8.0 kW（J I S条件）					
		※	冷媒センサー内蔵、（全体：天吊型遮断弁×2個）					
			（全体：リモコンスイッチ×2個、遠方運転用7ﾀﾞﾞﾞﾞｰ×2個）					

## 改修空調機器表 (3)

[illegible]

改修空調機器表 (3)

[illegible]

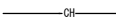
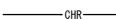
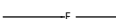






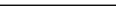

注1) マルチエアコンの室内機の接続及び、遮断弁キッドの接続は、ねじ接合継手（ISO14903適合）又は、ろう付け接続とすること。

注2) マルチエアコン用リモコンスイッチは、冷媒漏洩の警報機能を、搭載が必要。

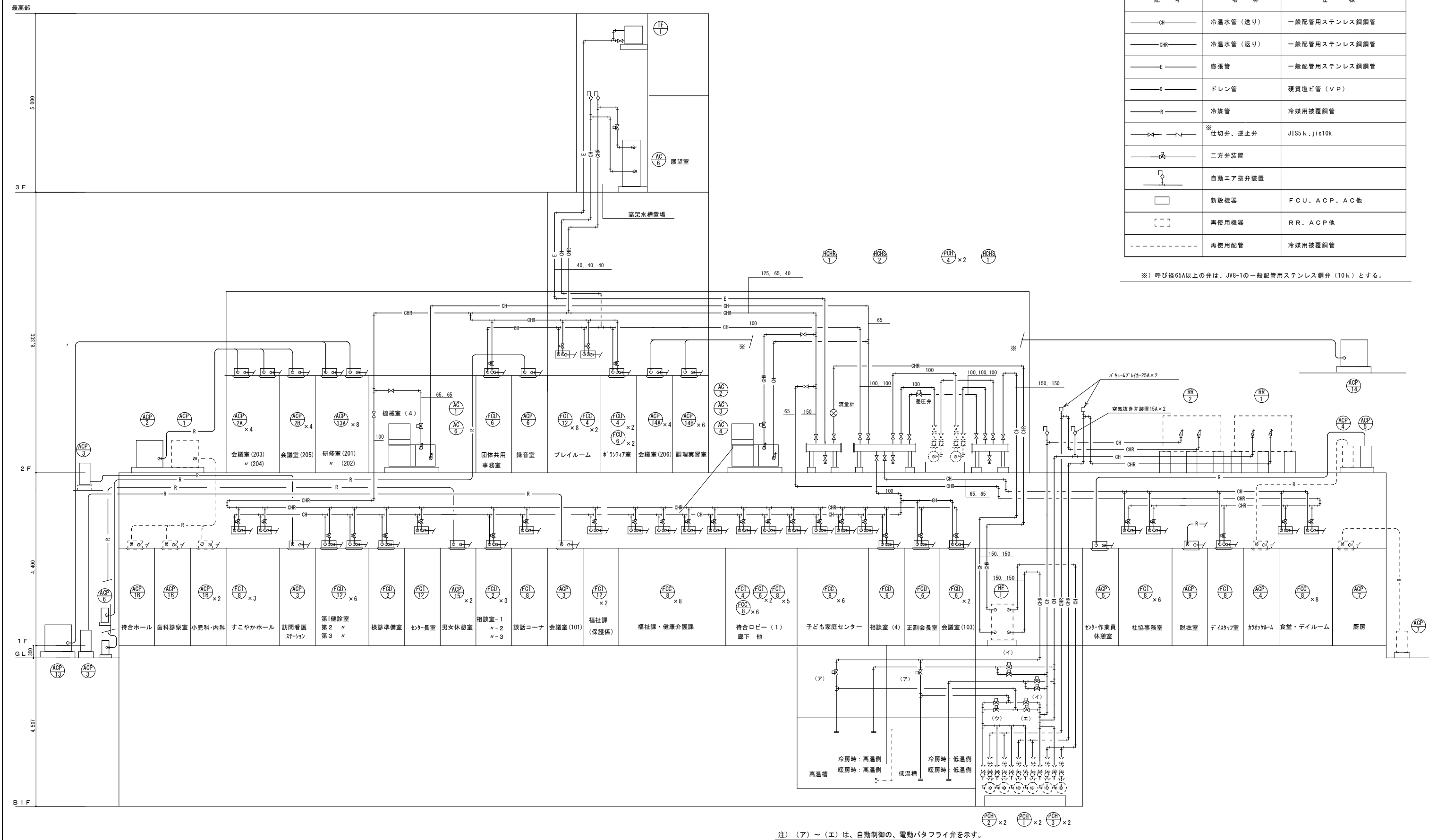
[illegible]

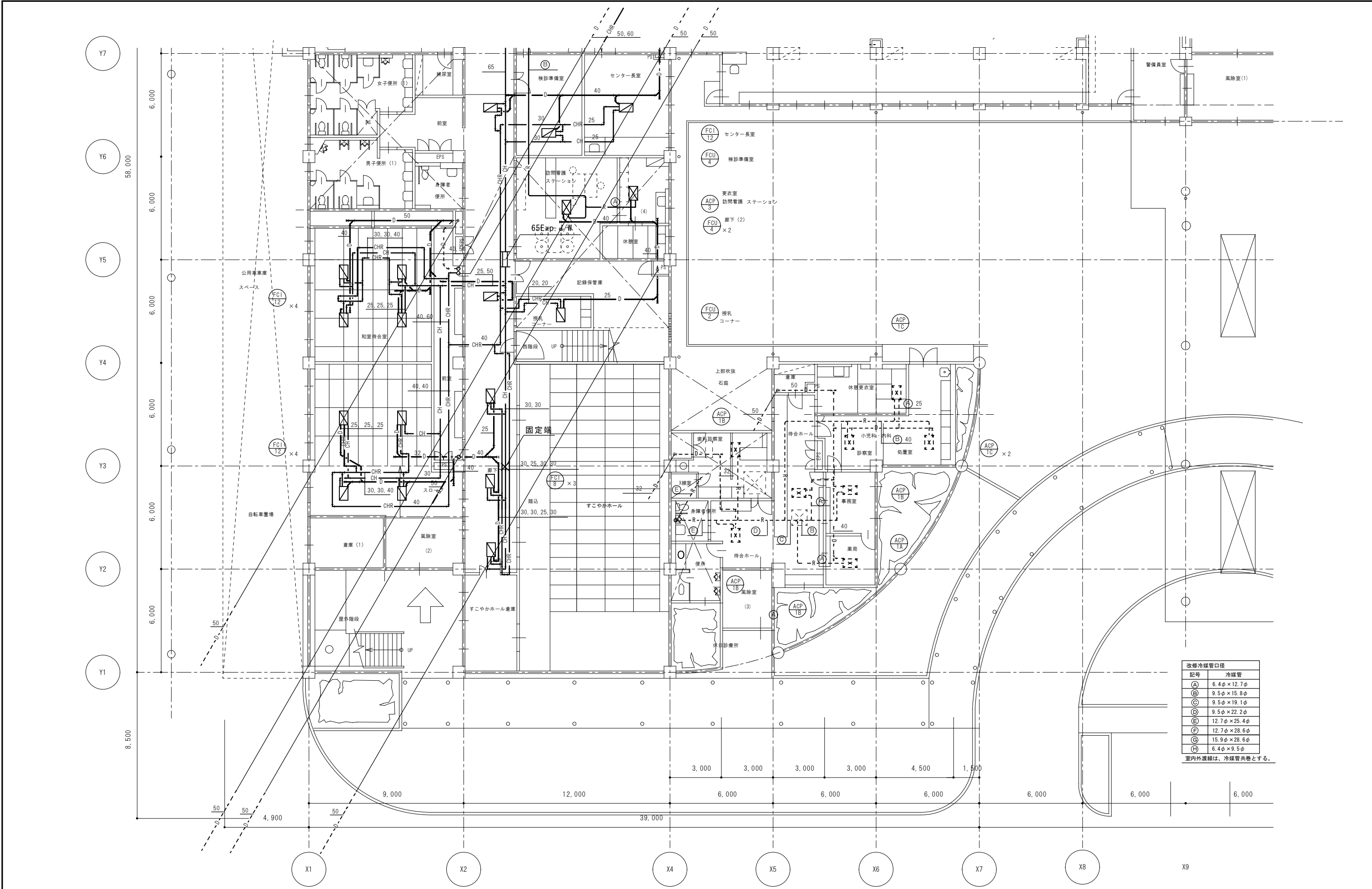
記   事		業務名称			工事名称		設計年月
		サソコモ古賀空調改修工事実施設計業務委託			サソコモ古賀空調設備改修工事		令和6年
		 株式会社 練企画設計 福岡支店			印	図面名称	縮尺
		一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11755号 一級建築士（大臣）第262654号 橋 知克			・	改修空調機器表（3）	-
							図面番号
							M-05

空調設備 改修工事凡例

記 号	名 称	仕 様
	冷温水管（送り）	一般配管用ステンレス鋼鋼管
	冷温水管（返り）	一般配管用ステンレス鋼鋼管
	膨張管	一般配管用ステンレス鋼鋼管
	ドレン管	硬質塩ビ管（V P）
	冷媒管	冷媒用被覆銅管
	※ 仕切弁、逆止弁	JIS5k、jis10k
	二方弁装置	
	自動エア抜弁装置	
	新設機器	F C U、A C P、A C 他
	再使用機器	R R、A C P 他
	再使用配管	冷媒用被覆銅管

※) 呼び径65A以上の弁は、JV8-1の一般配管用ステンレス鋼弁(10k)とする。





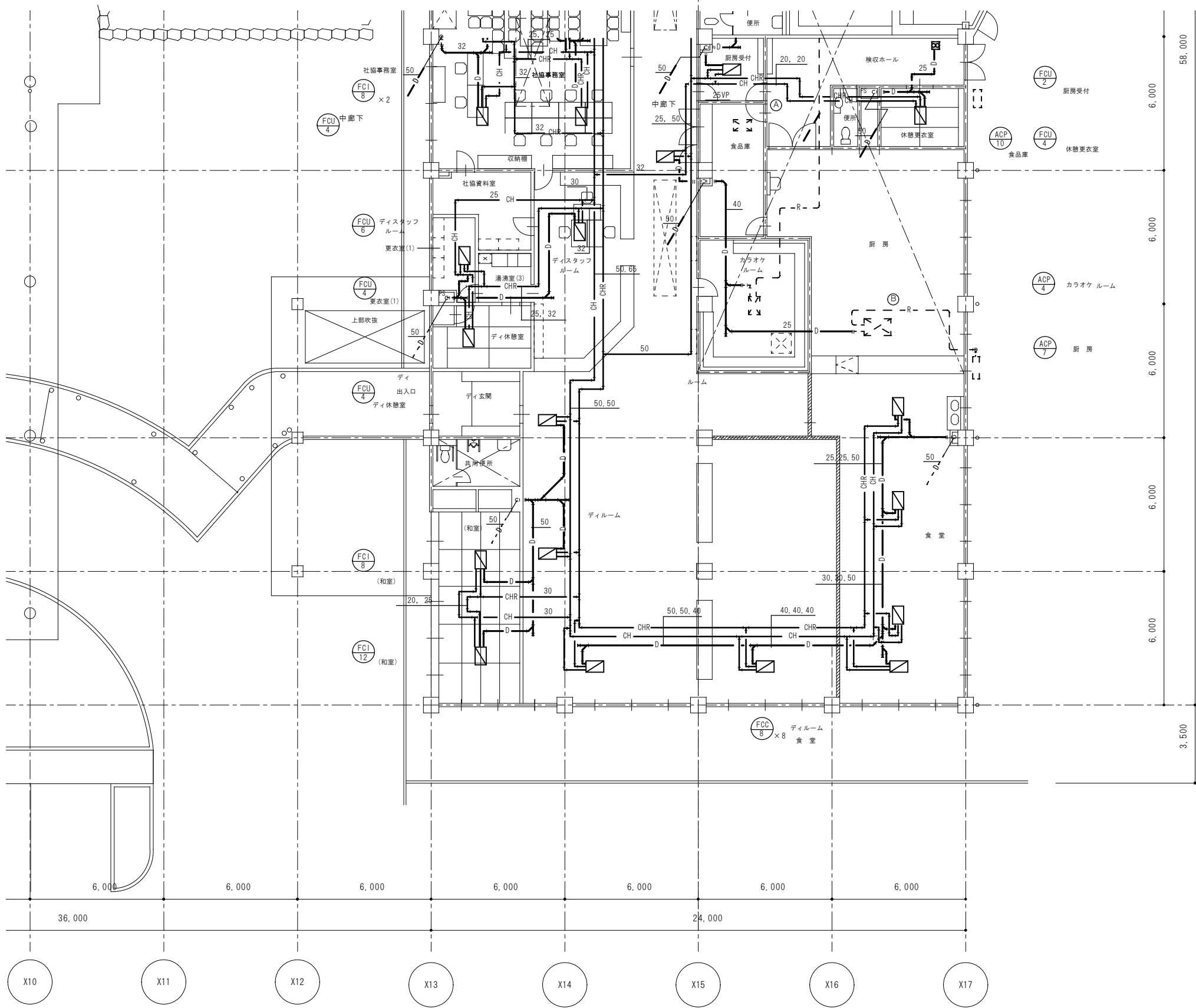
改修冷媒管口径	
記号	冷媒管
(A)	6.4φ×12.7φ
(B)	9.5φ×15.8φ
(C)	9.5φ×19.1φ
(D)	9.5φ×22.2φ
(E)	12.7φ×25.4φ
(F)	12.7φ×28.6φ
(G)	15.9φ×28.6φ
(H)	6.4φ×9.5φ

室内外渡線は、冷媒管共巻とする。

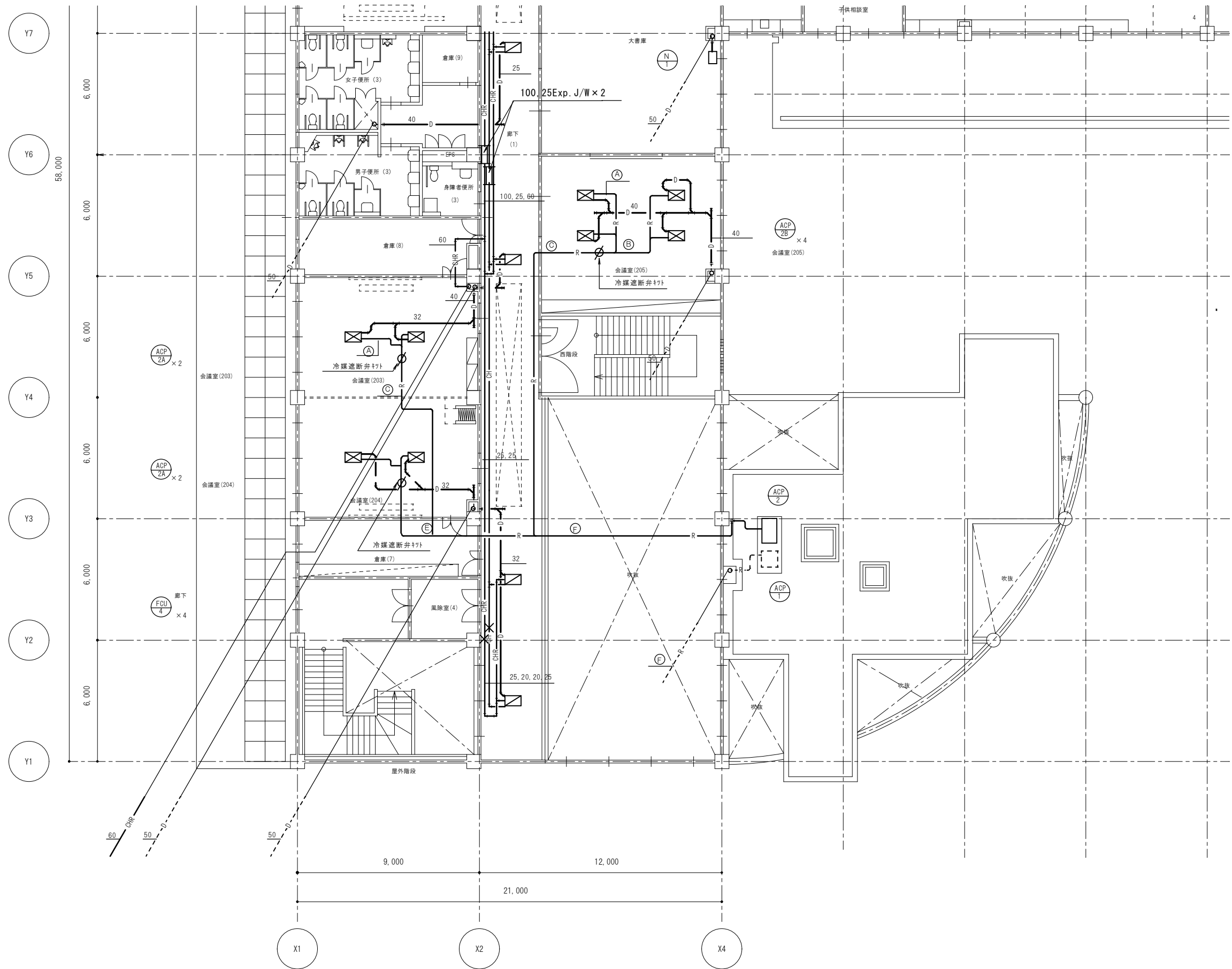




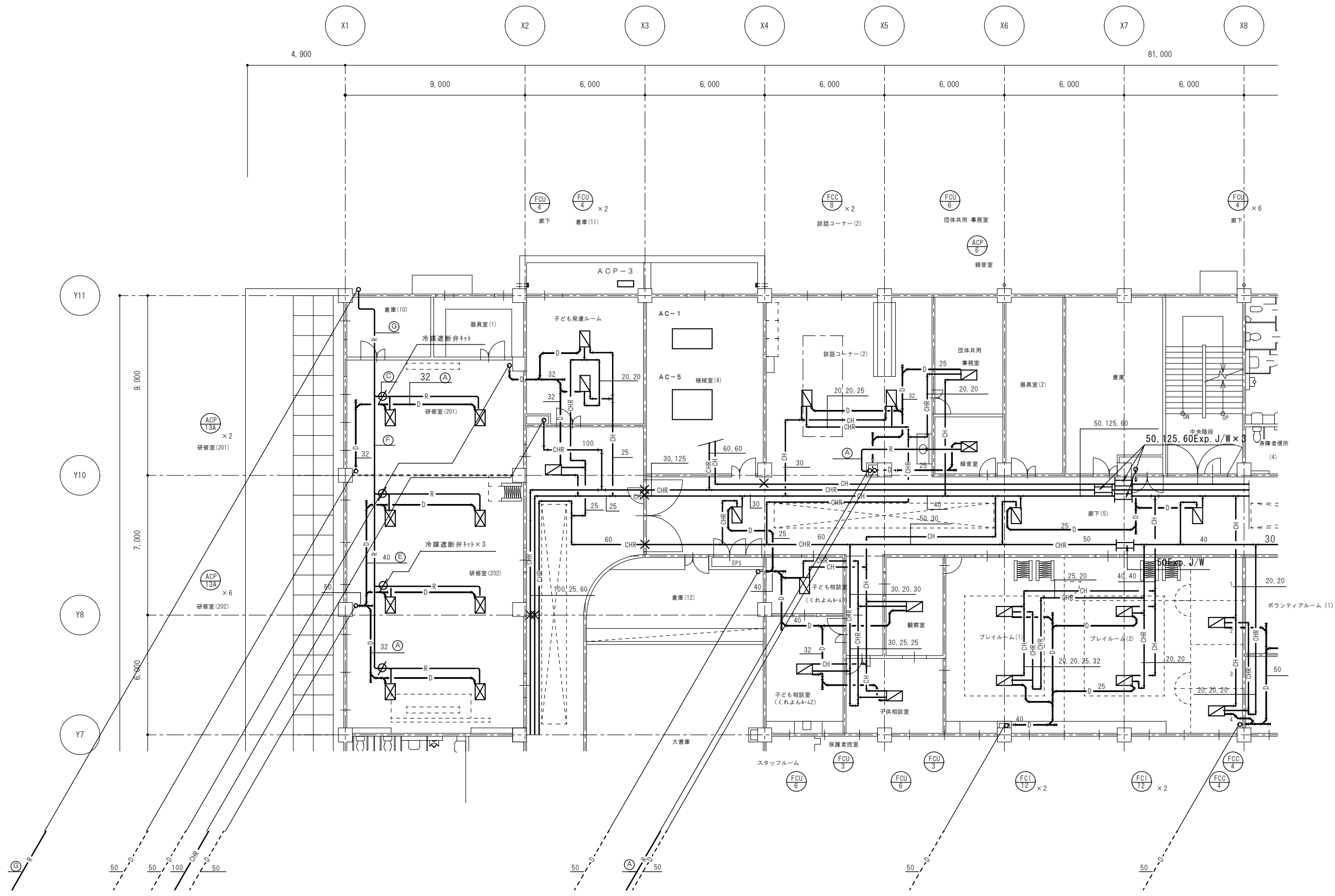




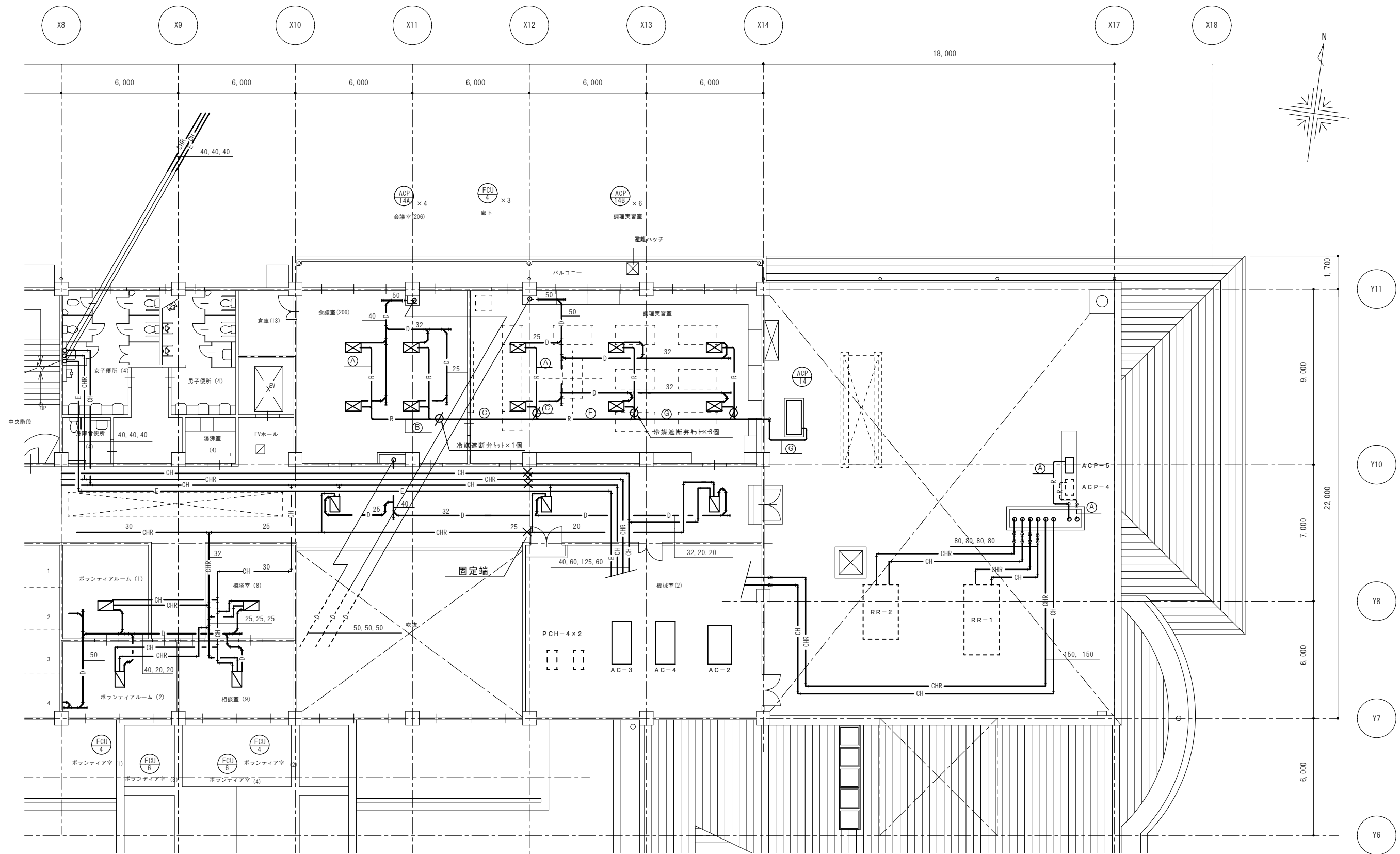
記   事			業務名称		工事名称		設計年月	
			サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託		サンコスモ古賀空調設備改修工事		令和6年	
			 株式会社 緑企画設計 福岡支店	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11755号	印	図面名称	縮尺	図面番号
				一級建築士（大匠）第262654号 橋 知克		1階改修配管図（4）	1：100	M-10



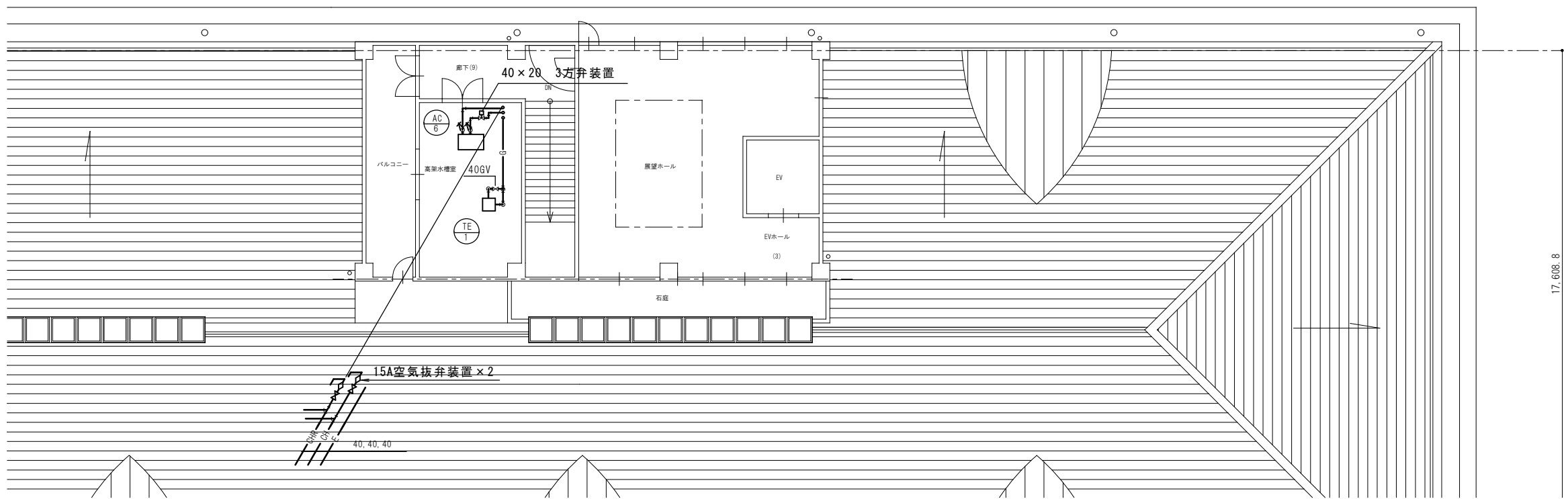
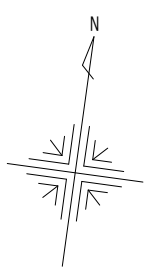
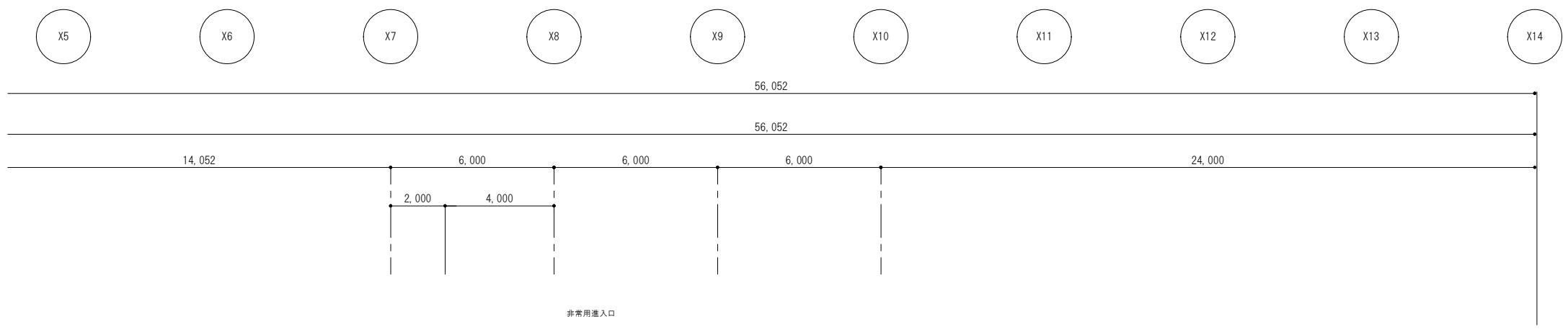
記  事					業務名称		工事名称		設計年月	
					サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託		サンコスモ古賀空調設備改修工事		令和6年	
					 株式会社 緑企画設計 福岡支店		図面名称		図面番号	
					一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11755号 一級建築士(大匠) 第262654号 横 知克		縮尺		M-11	



記 事		業務名称 サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託	工事名称 サンコスモ古賀空調設備改修工事	設計年月 令和6年
		図面名称 2階改修配管図 ( 2 )	縮尺 1 : 100	図面番号 M - 12



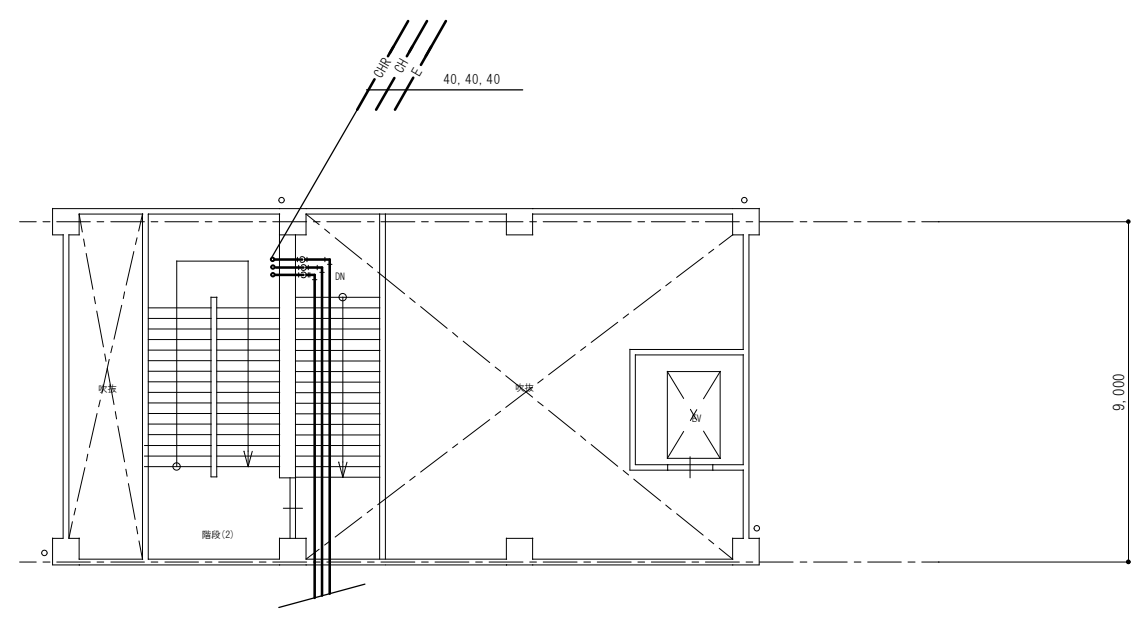
記 事		業務名称 サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託 株式会社 緑企図設計 福岡支店 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11755号 一級建築士 (大臣) 第262654号 橋 知克	印	工事名称 サンコスモ古賀空調設備改修工事 図面名称 2階改修配管図 (3)	縮尺 1 : 100	設計年月 令和6年 図面番号 M-13



Y11

Y10

Y8









記 事					業務名称 サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託		工事名称 サンコスモ古賀空調設備改修工事		設計年月 令和6年	
					株式会社 緯企画設計 福岡支店	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11755号 一級建築士(大臣) 第262654号 橋 知克	印	図面名称 中3・3階改修配管図	縮尺 1:100	図面番号 M-14

撤去換気機器表（１）

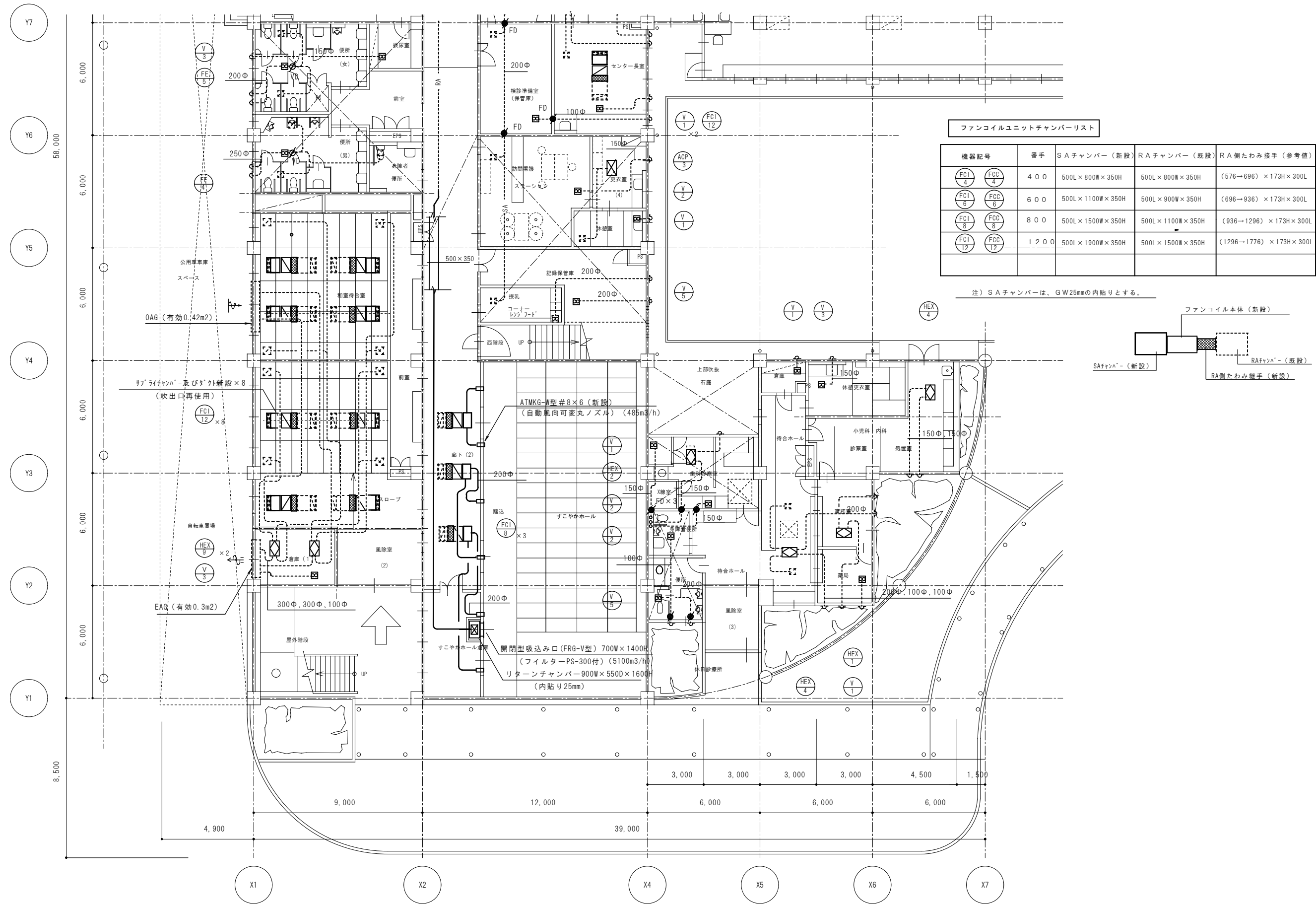
記 号	名 称		機 器 性 能	電圧	消費電力kW	台数	設置場所	備 考
F S－1	送風機（厨房系統）		片吸込シロッコファン（床置型）	3－2 0 0	2.2	1	中2階ファンルーム	F E－1 と連動
			# 4 ×11, 000m3/h×197Pa					再使用機器
F S－2	送風機（1階機械室（1）系統）		片吸込シロッコファン（天吊型）	3－2 0 0	0.75	1	1階機械室（1）	B H－1 と連動
			# 2 ・1/2×4, 200m3/h×180Pa					（温水ヒーター）
F S－3	送風機（調理実習室系統）		片吸込シロッコファン（天吊型）	3－2 0 0	1.5	1	2階機械室（3）	F E－2 と連動
			# 2 ・1/2×4, 800m3/h×230Pa					
F S－4	送風機（機械室（3）系統）		片吸込シロッコファン（天吊型）	3－2 0 0	0.4	1	2階機械室（3）	F E－1 4 と連動
			# 1 ・1/2×1, 600m3/h×200Pa					
F S－5	送風機（調理室炊飯系統）		給気用ストレートシロッコファン（消音型）	1－1 0 0	0.3	2	2階機械室（3）	F E－1 5 と連動
			250Φ×1, 750m3/h×150Pa					
			400Φ有圧扇用給排気ウエザーカバー（SUS製、防虫網共）					
F E－1	排風機（厨房系統）		片吸込シロッコファン（床置型）	3－2 0 0	3.7	1	中2階ファンルーム	再使用機器
	（テラル #4 CLF-5）		# 4 ×12, 700m3/h×295Pa					
			外形寸法 1, 075×450×1, 200h、重量 210kg					
F E-2	排風機（調理実習室系統）		片吸込シロッコファン（天吊型）	3－2 0 0	0.75	1	2階機械室（3）	
			# 2 ・1/2×4, 800m3/h×18mmAq					
F E－3	排風機（大浴室系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）（耐湿型）	1－1 0 0	0.25	1	1階検収ホール	再使用機器
	（三菱電機 BFS-100SD）		200Φ×1, 000m3/h×250Pa					
F E－4	排風機（男子便所系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.21	2	2階書庫（1）	
			200Φ×850m3/h×140Pa					
F E－5	排風機（女子便所系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.15	7	1・2階男子・女子便所	
			200Φ×750m3/h×120Pa					
F E－6	排風機（印刷室系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.13	2	1階売店	
			200Φ×650m3/h×160Pa					
F E-7	排風機（浴室・便所系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.15	1	1階障害者ビル	
			200Φ×600m3/h×220Pa					
F E－8	排風機（機械浴統）		静音型ストイレートシロッコファン（天吊型）（耐湿型）	1－1 0 0	0.18	1	1階検収ホール	再使用機器
	（三菱電機 BFS-80SD）		200Φ×600m3/h×210Pa					
F E-9	排風機（脱衣室・倉庫系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.12	3	1階廊下・倉庫	
			200Φ×500m3/h×200Pa				中2階ファンルーム、2階大書庫	
F E-1 0	排風機（印刷室・障害者ビル系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.09	4	1階障害者ビル	
			200Φ×450m3/h×150Pa				1階倉庫（4）、1階会議室（103）	
F E－1 1	排風機（トップライト系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.07	2	1階食堂・デイルーム	
			150Φ×300m3/h×140Pa					
F E-1 2	排風機（トップライト系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.04	3	1階警備室	
			150Φ×250m3/h×100Pa				1階社協事務室	

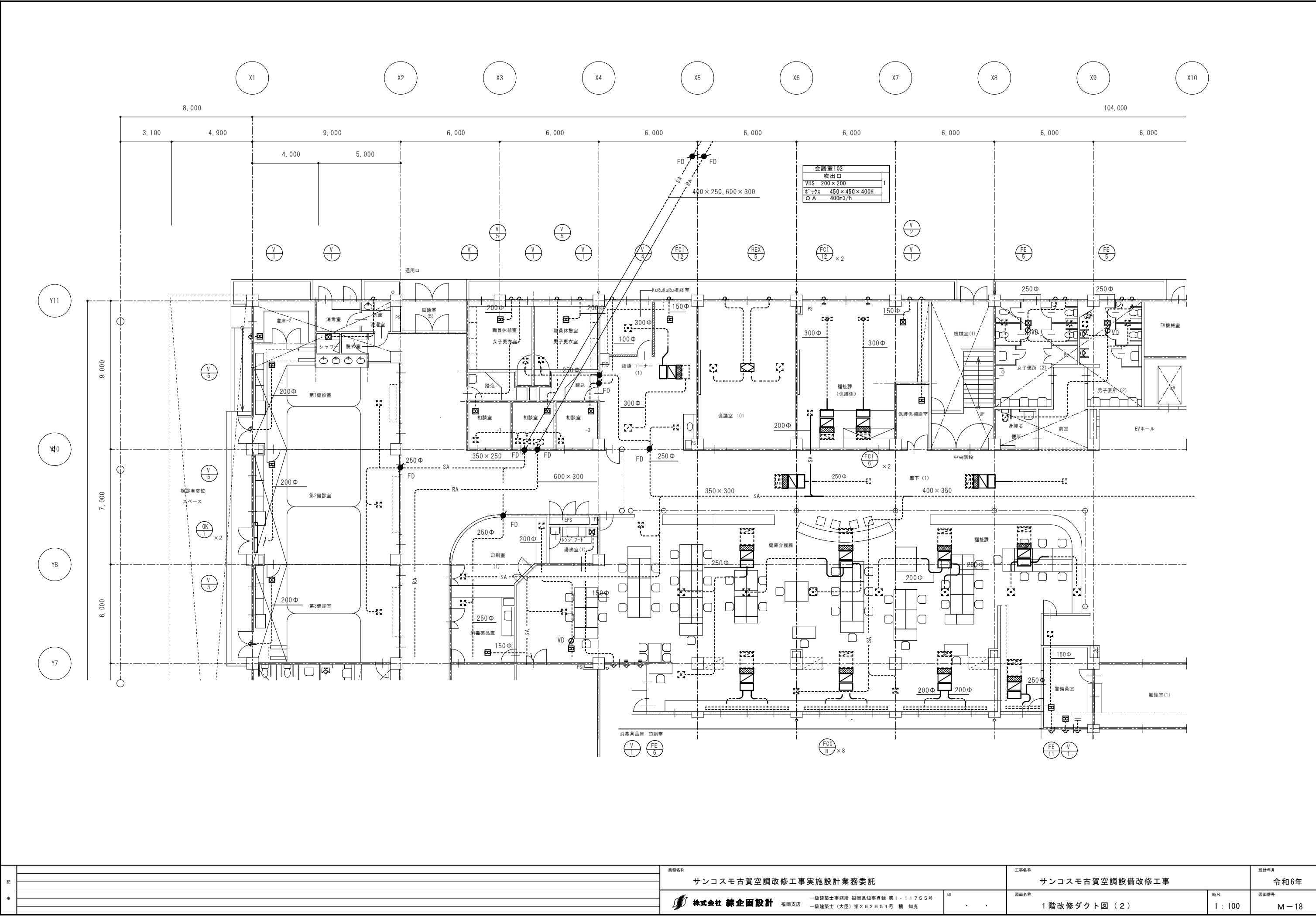
記 号	名 称		機 器 性 能	電圧	消費電力kW	台数	設置場所	備 考
F E-1 3	排風機（トップライト系統）		消音型ストイレートシロッコファン（天吊型）	1－1 0 0	0.07	5	2 階廊下、ｶﾞﾗｽﾃﾞｨﾜｲﾄﾞ(1)	
			150Φ×200m3/h×140Pa				2 階機械室（4）	
F E-1 4	排風機（機械室（3）系統）		片吸込シロッコファン（天吊型）	3－2 0 0	0.4	1	2 階機械室（3）	
			# 1 ・1/2×1, 600m3/h×20mmAq					
F E-15	有圧換気扇（調理実習室系統）		厨房用低騒音型SUS製 400Φ×2, 000m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.1	2	2階調理実習室	
			400Φ有圧扇用給排気ウエザーカバー（SUS製、防虫網共）					
H E X-1	全熱交換器		カセット型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.08	2	1 階診療事務室	
			送風量 100m3/h×70Pa リモコンスイッチ共				2 階録音室	
H E X-2	全熱交換器		カセット型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.12	1	1 階歯科診療室	
			送風量 150m3/h×70Pa リモコンスイッチ共					
H E X-3	全熱交換器		カセット型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.12	2	1 階ｶﾌｪﾃﾞｨﾔｰ	
			送風量 200m3/h×70Pa リモコンスイッチ共				2 階団体共用事務室	
H E X-4	全熱交換器		天井埋込ダクト型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.21	3	1 階待合ホール、小児科	
			送風量 350m3/h×70Pa リモコンスイッチ共				2 階子ども発達ルーム	
H E X-5	全熱交換器		天井埋込ダクト型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.21	5	各室	
			送風量 400m3/h×70Pa リモコンスイッチ共					
H E X-6	全熱交換器		天井埋込ダクト型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.21	1	2 階会議室（205）	
			送風量 450m3/h×70Pa リモコンスイッチ共					
H E X-7	全熱交換器		天井埋込ダクト型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.21	1	2 階会議室（206）	
			送風量 500m3/h×70Pa リモコンスイッチ共					
H E X-8	全熱交換器		天井埋込ダクト型静止形全熱交換器	1－1 0 0	0.34	3		
			送風量 600m3/h×70Pa リモコンスイッチ共					
H E X-9	全熱交換器		天井埋込ダクト型静止形全熱交換器	1－1 0 0	1.13	2	1 階和室待合室	
			送風量 1, 500m3/h×70Pa リモコンスイッチ共					
V-1	天井扇		低騒音型 100Φ×100m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.016	24	各室	
V-2	天井扇		低騒音型 150Φ×150m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.024	20	各室	
V-3	天井扇		低騒音型 150Φ×200m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.042	8	各室	
V-4	天井扇		低騒音型 200Φ×250m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.042	3	各室	
V-5	天井扇		低騒音型 200Φ×300m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.042	10	各室	
V-6	天井扇		低騒音型 200Φ×350m3/h×60Pa	1－1 0 0	0.082	6	各室	
F-1	有圧扇		低騒音型有圧扇 350Φ×2, 800m3/h×50Pa	1－1 0 0	0.115	1	1 階EV機械室	
			風圧シャッター、SUS製ウエザーカバー、保護ガード、サーモスイッチ共					
G K-1	エアーカーテン		業務用タイプ 本体開口寸法 90cm	1－1 0 0	0.051	2	1 階第3健診室	
			最大吹出風速9. 5m/sec、風量1060m3/h					




記 号	名 称	仕 様
—SA—	給 気 ダ ク ト	垂鉛メッキ鉄板
—OA—	外 気 ダ ク ト	垂鉛メッキ鉄板
—EA—	排 気 ダ ク ト	垂鉛メッキ鉄板
—RA—	還 気 ダ ク ト	垂鉛メッキ鉄板
	風量調整ダンパー	冷煤用被覆銅管
	チャッキダンパー	JIS5k、jis10k
	モーターダンパー	冷煤用被覆銅管
	防火ダンパー	冷煤用被覆銅管
	新設機器	HEX、FCI、FE、AC他
	再使用機器	ACP
-----	再使用ダクト	SA、OA、EA、RA







記   事		業務名称	工事名称			設計年月	
		サンコスモ古賀空調改修工事実施設計業務委託			サンコスモ古賀空調設備改修工事		令和6年
		 株式会社 緑企図設計 福岡支店	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1・11755号	印	図面名称	縮尺	図面番号
			一級建築士（大匠）第262654号 橋 知克	・	1 階改修ダクト図（2）	1：100	M－18

